就学前教育・保育実践の手引き

八　　尾　　市
八尾市教育委員会

目　次

第1章　手引き作成にあたって……1

1．趣旨……1
2．位置づけ……3
3．作成体制……3

第2章　4つの育みたい力と教育・保育内容……4

1．4つの育みたい力……4
2．教育・保育内容の一覧……6
3．年齢別の教育・保育内容……15
① 0歳（～6か月）……16
② 0歳（～15 か月）……20
③ 1歳児……24
④ 2歳児……28
⑤ 3歳児……32
⑥ 4歳児……36
⑦ 5歳児……40
4．配慮や支援が必要な子どもの教育・保育……44

第3章　家庭・地域との連携……49

第4章　幼稚園・保育所の連携（交流）……58

第5章　手引きの活用……65

資料編……69

1．八尾市の教育・保育に関する関連計画との関係……69
2．教員・保育士・保護者の意識（アンケート調査結果）……71
3．就学前教育・保育実践の手引き作成経過……75
4．八尾市教育・保育実践の手引き検討会議設置要綱……76
5．八尾市教育・保育実践の手引き検討会議及び作業部会委員名簿……78

第１章　手引き作成にあたって

1. 趣旨

乳幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期です。子どもたちは、生活や遊びといった直接的・具体的な体験を通して、人として、社会の一員として、より良く生きるための基礎を獲得していきます。そのため、この時期に経験しておかなければならないことを十分経験することは、将来、人として充実した生活を送るうえで不可欠です。

しかし近年、少子化や核家族化、都市化など社会の急激な変化を受けて、人々の価値観や生活様式が多様化している一方で人間関係が希薄化するなど、子どもの育ちをめぐる環境が変化しており、極めて重要とされる乳幼児期における教育・保育のあり方も変化が求められてきました。

国においては、平成 18 年 12 月に教育基本法が改正され、幼児期の教育の振興が盛り込まれました。これを受け、平成 20 年３月の幼稚園教育要領（改訂）並びに保育所保育指針（改定）により、幼稚園や保育所と小学校などが連携・協力すること、また、子育て支援を含め幼稚園・保育所の役割や保育内容における共有化が明確になりました。

さらに、平成 24 年８月には、子ども・子育て関連３法が公布され、就学前の子どもへの教育及び保育並びに家庭や地域に対する子育て支援策が一体的、総合的に推進されることとなりました。

■幼稚園教育要領改訂と保育所保育指針改定のポイント

幼稚園教育要領

- 発達や学びの連続性を踏まえた幼稚園教育を充実
- 幼稚園生活と家庭生活の連続性を踏まえた幼稚園教育を充実
- 子育ての支援と預かり保育を充実

保育所保育指針

- 保育所の役割の明確化
- 保育の内容、養護と教育の充実
- 小学校との連携
- 保護者に対する支援の重要性
- 保育の計画と評価などの充実

こうした国の動きの中、本市では、幼稚園や保育所がそれぞれの方針や特色を活かした教育・保育を実践するとともに、幼保小連携の強化を目的として、公立、私立の幼稚園・保育所の保育者、小学校の教師を対象とした合同研修会を実施しています。

しかし、少子化の進行や家庭・地域を取り巻く環境の変化に伴い、公立幼稚園における園児数の減少により集団教育の面からも望ましい教育環境の確保が困難になってきています。また、保護者の就労形態が多様化し保育所の入所希望者が増加傾向にあることなど、子どもの教育・保育環境面での課題が発生してきています。

それらの課題を解消するために、公立幼稚園・保育所を就学前の施設として一体的にとらえ、そのあり方や配置について検討するとともに、質の高い教育・保育の一体的な提供について研究する中で、就学前の施設の見直しを想定しつつ、幼稚園や保育所がそれぞれの設置目的や制度の違いをこえて、**育てたい子どもの姿や育ちを共有し、就学前教育と保育の本質を大切にした教育・保育をともに実践する**ことが重要であると考えました。

さらに、幼児期から児童期にかけては、学びの芽生えから次第に自覚的な学びへと発展していく時期であることから、幼児期の教育から小学校教育へより円滑に移行するためには、**幼児期から児童期への発達や学びの特性を活かした教育・保育の実践と接続が重要**だと考えました。

そこで、就学前教育・保育が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることや家庭や地域との連携を深めることに配慮しながら、子どもの健やかな育ちを保障し、より効果の高い教育・保育を実践することを目的として、就学前の教育・保育に重点をおいた「就学前教育・保育実践の手引き」を作成しました。

なお、本手引きの特長としては、**①4つの育みたい力とその教育・保育内容を示していること**、**②0～5歳児の発達と学びの連続性をもたせていること**、**③子どもの様子や幼保での取組み事例を多く紹介していること**であり、本手引きを活用する際には、これらの特長が活かされるものと考えます。

■より良い教育・保育の提供イメージ

2. 位置づけ

本手引きは、幼稚園・保育所がこれまでに積みあげてきた考え方やノウハウを互いに理解しあうとともに、子どもの発達にあわせて育ちと学びを引き出していくために、大事にしたい教育・保育の考え方をまとめたもので、子どもたちが、八尾市教育振興計画における**～未来を切り拓く チャレンジする『八尾っ子』～へと成長する姿を見通しながら、その基礎となる力を育むための手引き**となるものです。

また、幼稚園教育要領や保育所保育指針に基づき、教育課程・保育課程や指導計画などを作成する際の参考となるものです。

本手引では、八尾市がめざす８つの子ども像を踏まえ、就学前の子どもに、小学校入学までに育てたい力は何なのかを示したうえで、年齢ごとの子どもの姿やねらい、取組み内容などを記載するとともに、具体的な事例などを紹介し、日々の教育・保育のふり返りや確認に活用できるように作成しています。

■八尾市がめざす子ども像（八尾市教育振興計画）

①知識を活用する子ども
②学習意欲あふれる子ども
③ねばり強い子ども
④健やかで心豊かな子ども
⑤生命を大切にする子ども
⑥人とのつながりを大切にする子ども
⑦マナーやルールを守る子ども
⑧わが国と郷土を愛する子ども

このような手引きを通して、**教育・保育のつながりや育ちや学びのつながり、家庭や地域のつながりについて、保育者間で共有したり意識したりすることができる**ものと考えています。

3. 作成体制

本手引きの作成にあたっては、公立幼稚園・保育所の保育者、小学校１年生の担任、幼児・児童の保護者に対するアンケート調査を実施し、保育者や保護者から、就学前教育・保育に対する意見・要望を把握しました。

また、教育・保育に関する取組みの事例調査を行い、各幼稚園・保育所において子どもの成長などに気がついた出来事を事例として収集しました。

内容の検討にあたっては、「八尾市教育・保育実践の手引き検討会議」で審議を行い、「八尾市教育・保育実践の手引き検討会議作業部会」で内容の意見交換及び検討を行いました。

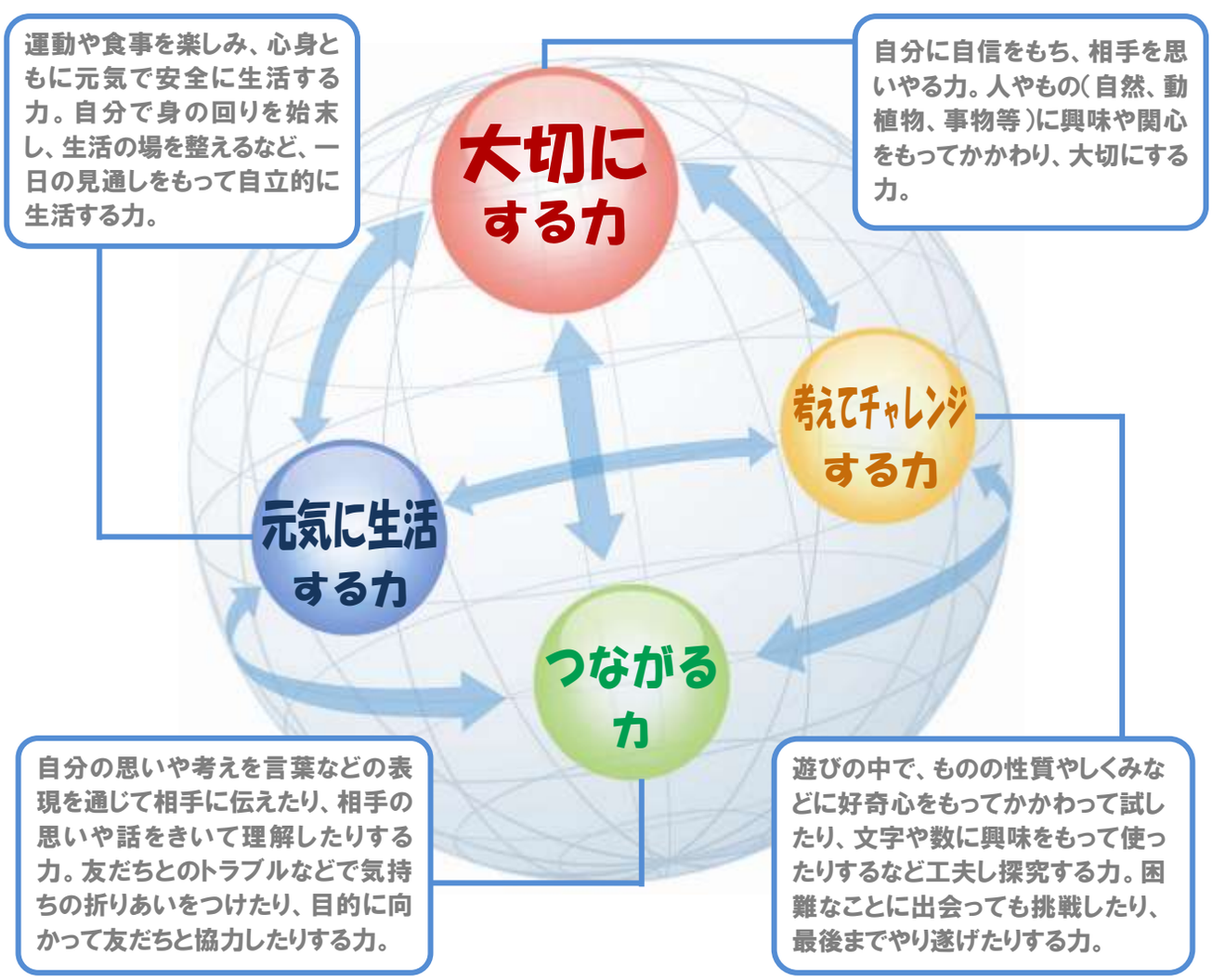
第2章　4つの育みたい力と教育・保育内容

1．4つの育みたい力

本手引きでは、小学校入学までに育みたい力を４つの力として分類し、その力を構成する要素をまとめました。この４つの力は、互いに関連しあいながら、小学校及びその後の育ちや学びへとつながっていく力であると考えています。

その中でも、特に重要な力として位置づけたのが「大切にする力」です。乳幼児期に、自分も相手も周囲の人々やものも大切にする力を育むことは、その後健やかにたくましく心豊かに成長していくための基盤となると考えたためです。

「大切にする力」とは、人やものなどを好きになること、好きになれなくても大切にしようとすること、そして興味・関心をもってかかわっていこうとすることです。この力を基盤として**「元気に生活する力」「つながる力」「考えてチャレンジする力」をともに育んでいくこと**が、本市のめざす「未来を切り拓く　チャレンジする『八尾っ子』」を育てることにつながっていきます。



４つの育みたい力を構成する要素とその具体的な内容は以下の通りです。

	要素	内容
大切にする力	自尊心・自信・安心	・身近な大人との信頼関係を築いて安心して生活し、自分や他の人を認める。 ・さまざまなことに自信をもって積極的に取り組む。 ・何かができた時に喜んだり、自分を褒めたりする気持ちをもつ。
	興味・関心・気づき・親しみ	・身近な環境にかかわり、さまざまなものや出来事に興味・関心をもつ。 ・身近な動植物に親しみ、生命の尊さに気づいて大切にする。 ・自然を見たりふれたりして、その美しさ・不思議さに気づく。 ・身近なものを大切にする。
	道徳性・思いやり・感謝	・家族や身近な大人からの愛情を受け、親しみをもってかかわる。 ・家族や友だちの大切さに気づき、感謝の気持ちや思いやりをもってかかわる。
元気に生活する力	自立・自主性	・基本的な生活習慣を身につけ、自分で考えて行動する。 ・落ち着いて生活する中で、身の回りのことを自分でする。
	生活習慣・生活リズム	・早寝・早起き・朝ご飯など、健康な生活リズムを身につける。 ・一日の生活の流れを理解し、意識して行動する。
	規範意識・ルール・安全	・友だちと楽しく遊ぶためのルールがわかり、守ろうとする。 ・良いことと悪いことに気づき、自分で判断して行動する。 ・危険な場所や遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり、安全に気をつけて行動する。
	発達・運動・遊び	・体を動かす心地良さを感じる。 ・友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わい、積極的に戸外へ出て体を動かす。 ・主体的に遊びを見つけて取り組み、遊び込む。
	食事・食育	・食べ物に興味・関心をもち、自分から進んで食べる。 ・食べ物のおいしさや食べる喜びを知り、楽しんで食事をする。 ・食べ物や食べることの大切さに気づき、残さず食べようとする。
つながる力	話す・伝えあう・言葉	・自分の経験したことや感じたこと、思い、考えなどを自分なりの言葉で表現する。 ・わからないことや困ったこと、嫌なことを、身近な大人や友だちにはっきり伝える。 ・言葉を交わす喜びを味わい、言葉による伝えあいをする。 ・あいさつを交わしたり、返事をしたりする心地良さと大切さを知る。
	きく・理解する・くみ取る	・人の話を落ち着いて最後まできく。 ・人の話を集中してきき、理解しようとする。 ・表情や動きから、相手の思いをくみ取ろうとする。 ・絵本や物語などに親しみ、興味をもってきく。
	共感・折りあう・協同性	・友だちと積極的にかかわる中で、喜びや悲しみを共感しあう。 ・相手の考えを理解し、相手の気持ちに共感する。 ・トラブルや葛藤する体験を通して、相手の気持ちを理解し、自分の気持ちを調整することで、折りあいをつける。 ・友だちと楽しく活動する中で、共通の目的に向かって工夫したり協力したりする。
考えてチャレンジする力	挑戦・達成・ねばり強さ	・初めてのことや苦手なことにも、積極的に挑戦しようとする。 ・失敗してもあきらめずに、最後までやり遂げようとする。
	意欲・好奇心・探究心・活用	・さまざまなことに好奇心をもって意欲的に取り組み、その性質やしくみに興味をもって探究しようとする。 ・日常生活の中で、文字や数量・図形などに関心をもち、遊びに取り入れようとする。
	感性・表現・工夫	・日常生活の中で、美しいものや心を動かすことに出会い、イメージを豊かにする。 ・感じたことやイメージしたことを自分なりに工夫して、かいたりつくったりすることを楽しんだり、音や動きなどで表現したりする。

2. 教育・保育内容の一覧

４つの育みたい力とその要素に基づき、各年齢において大事にする教育・保育を一覧にしました。就学前の子どもの育ちや学びのつながりが見て取れるようになっています。

		0歳(～6か月)	0歳(～15 か月)	1歳児	2歳児
大切にする力	自尊心・自信・安心	○特定の人(身近な人)に愛されることで信頼感が芽生える。 ○適切な世話を受けて、心地良さや安心感をもつ。	○特定の人(身近な人)との愛着が深まる。 ○保育者からのふれあいや語りかけに対して応えようとしたりする。	○自分の思いを指さしや身振りや簡単な言葉などで伝えようとする。 ○保育者や友だちと一緒にいることに喜びをもったり、楽しんだりする。	○自己主張する中で、自分が思っていることやしてほしいことを表現する。 ○保育者に援助されながら自分でできたという喜びを感じる。
	興味・関心・気づき・親しみ	○手にふれたものを握ったり、耳にきこえた音に反応したりする。 ○身近な自然にふれる。	○周囲の人やものへの興味が芽生えてくる。 ○身近な自然を見たり、ふれたりして、関心をもつ。	○身近な生活の模倣や見立て遊びを楽しむ。 ○身近な動植物に関心をもつ。 ○さまざまな遊具や用具にふれる。	○身近な環境に興味をもち、かかわろうとする。 ○身近な動植物を見たり、ふれたりして関心が高まる。 ○保育者に援助されながら遊具を片づけようとする。
	道徳性・思いやり・感謝	○大人から向けられている気持ちを感じる。	○大人から向けられている気持ちに応えようとする。	○大人の言うことに応えようとする。	○保育者が仲立ちとなり、友だちの気持ちに気づく。
	環境・援助	○子どものさまざまな行動や欲求に気づき、受けとめることで、安心感や愛着をもたせる。 ○子どもと目をあわせ優しく語りかけながら身の回りの世話をする。 ○一人ひとりの体の様子や表情をよく観察し、不快に対するサインを察知し、愛情豊かに受容する。	○特定の大人との愛着関係を大切にしながら、安定して過ごせる雰囲気をつくる。 ○一人ひとりの子どもとのふれあいを多くもち、欲求や要求に愛情をもって応え、信頼関係を築いていく。 ○子どもが表現したことを受けとめ、優しく、ゆっくり、はっきりと応えたり、語りかけたりする。	○特定の大人との愛着関係をもとに、情緒の安定をはかり、思いを共有する。 ○模倣や見立て遊びができるように、変化があって楽しめるような環境を工夫する。 ○身近な動植物に関心がもてるように、一緒に見たり、ふれたり、語りかけたりする。 ○子どもの発達や興味にあった遊具を用意し、十分に楽しめるようにする。	○一人ひとりの子どもの気持ちを受けとめ、信頼関係を築く。 ○子どもが自分からしてみようとする行動を大切にし、温かく見守る。 ○一人ひとりの発達や興味をとらえ、楽しく遊べるような環境をつくっていく。

3歳児	4歳児	5歳児
○自分の気持ちがわかり、自分なりの言葉や方法で相手に伝えようとする。 ○全身を使った遊びや身の回りのことが自分でできたという喜びや自信をもつ。	○友だちの気持ちに関心をもち、理解できるようになる。 ○保育者との信頼関係の中で、さまざまな活動に自分から参加しようとする。	○友だちの気持ちを理解しながら、自分の気持ちを言葉で伝えようとする。 ○自信をもって自分の力で行動しようとする。
○身近な環境への興味・関心が高まり、自分なりに表現しようとする。 ○身近な動植物を見たり、ふれたりして、親しみをもつ。 ○さまざまな遊具や用具を大切にしながらふれたり、遊んだりする。	○身近な動植物とかかわり、大切にしようとする。 ○さまざまな遊具や用具に親しみ、使い方を知る。	○身近な動植物に親しみをもって接し、生命の大切さに気づく。 ○共同の遊具や用具に愛着をもち、大切にする。
○友だちの気持ちを感じ取ろうとする。	○友だちの気持ちを考え、思いやりの気持ちをもって生活する。 ○さまざまな人に関心をもってかかわる。	○友だちを思いやり、互いに認めあいながら生活する。 ○家族の愛情に気づき、家族を大切にしようとする。 ○さまざまな人とのかかわりに興味・関心をもち、親しみを感じたり、感謝の気持ちを表現したりする。
○一人ひとりの思いを受けとめたり、見守ったりしながら様子を見守り、「できた」という満足感を味わえるようにする。 ○一人ひとりの発達や興味をとらえ、必要に応じて手助けしたり励ましたりして、自分でしようとする気持ちを育てる。 ○気のあう友だちとの遊びを大切にし、他の友だちとも関係が広がっていくように仲立ちする。 ○友だちと一緒にする遊びが十分に楽しめるような遊具を用意し、楽しめるようにする。	○自分でしようとする姿を見守り、できた時には褒めたり、一緒に喜んだりする。 ○自然に興味・関心をもてるようにし、成長や変化に気づけるようにする。 ○遊びの空間を確保しながら、一人ひとりが安定して遊べる場を多くつくり、遊びに取り組めるようにする。 ○遊具や用具の安全な使い方や約束などを、繰り返しわかりやすく伝える。	○友だちの良さや頑張りを認めあえるような場や機会を多くもつ。 ○目標をもって頑張っている姿を励ましたり、認めたりして自信につながるようにする。 ○トラブルが生じた時は、保育者も子どもと一緒に考えあい、互いが納得できるようにしていく。 ○子どもと一緒に、動植物を見たり、世話したりしながら、愛情をもってかかわれるように見守り、生命の大切さに気づけるようにする。 ○就学に向けての期待や不安な気持ちを十分受けとめ、一人ひとりが自信をもって、入学を楽しみにできるようにする。

		0歳(～6か月)	0歳(～15 か月)	1歳児	2歳児
元気に生活する力	自立・自主性	○特定の大人に親しみや安心感をもち、安定した気持ちで過ごす。	○身の回りのさまざまなものに気づき、かかわっていこうとする。	○食事、着脱、排泄などの身の回りのことに興味をもち、自分でしようとする。	○保育者に見守られながら、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。
	生活習慣・生活リズム	○生理的欲求を満たしてもらい、安心して過ごす。	○一人ひとりの生活リズムが安定して眠ったり、食事したりする。	○一定時間安定して眠る。	○簡単な生活リズムがわかる。
	規範意識・ルール・安全	○規則正しい生活に心地良さを感じ、安定した気持ちで過ごす。	○保育者の言葉かけに対して、応えようとする。	○保育者の言葉かけがわかり、行動しようとする。	○保育者からの言葉かけで、約束やルールがあることを知る。
	発達・運動・遊び	○動くものを目で追ったり、手を伸ばして握ろうとしたりする。	○一人ひとりの発達にあった体の活動を十分に行う(座る、這う、立つ、伝い歩き、一人歩き)。	○歩行が完成し、行動範囲が広がり、歩くことを楽しむ。	○歩いたり、跳んだり、体を動かしたりして、遊ぶことを楽しむ。
	食事・食育	○授乳、離乳を通して食べる喜びや楽しさを体験する。	○離乳食を喜んで食べ、さまざまな食べ物を味わう。	○さまざまな食べ物に興味をもち、保育者の援助を受けながらスプーンやフォークを使って楽しく食事をする。	○スプーンやフォークの正しいもち方を知り、楽しく食事をする。 ○身近な人と一緒に食べる喜びや楽しさを感じる。
	環境・援助	○落ち着いた雰囲気の中で、一人ひとりの生活リズムにあわせた環境を整える。 ○一人ひとりにあわせた表情や言葉、動きで相手をし、1対1のかかわりを大切にしながら愛着関係を築く。 ○睡眠時の状態に十分な気配りをする。 ○衛生的な環境の中で生活する。	○特定の保育者とのかかわりを多くもち、甘え、不安、人見知りなどの気持ちや仕草を受けとめ、優しく対応する。 ○一人ひとりの生活リズムを大切にし、生理的欲求を受けとめ十分に満たす。 ○離乳食は家庭との連携を大切に無理なく進め、食べようとする気持ちを育てる。	○落ち着いた雰囲気の中で、自分でしようとする気持ちを受けとめ、興味・関心がもてるようにする。 ○安全で活動しやすい環境を整える。 ○発育、発達を考慮し、一人ひとりが満足して遊べるように環境を整える。	○一人ひとりにあった援助をしながら、自分でしようとする気持ちを育てる。 ○生活や遊びの中に約束やルールがあることを、繰り返し伝えていく。 ○楽しみながら体を動かせる遊びを取り入れる。 ○一人ひとりの発達を踏まえながら、体を使った遊びが十分楽しめるような環境を工夫する。

3歳児	4歳児	5歳児
○簡単な身の回りのことを自分からしようとする。	○身の回りのことを自分でできるようになる。 ○遊びや生活の中で、伸び伸びと行動し、自分らしさを出す。	○遊びや生活の中で、自分らしさを発揮しながら自発的に物事に取り組む。
○食事・着脱・排泄などの身の回りのことを自分でしようとする習慣が身につく。 ○一日の生活の流れを意識しようとする。	○一日の生活の流れがわかって、生活しようとする。	○一日の流れに応じて、自分で見通しを立てながら遊んだり、生活したりする。 ○生活に必要な習慣の大切さがわかり、健康的な生活を進んでしようとする。
○生活や遊びの中でさまざまな約束やルールがあることを知り、守ろうとする。	○生活や遊びのルールの大切さがわかり、守る。 ○交通ルールを知り、守る。	○友だちと一緒にルールをつくって遊びを楽しむ。 ○危険な時の行動の仕方がわかり、安全に気をつけて行動する。
○走る、跳ぶ、転がるなど、自分の体の動きをコントロールしながら全身を使った遊びを楽しむ。	○友だちや保育者と一緒に、全身を思いきり動かして遊ぶ。	○戸外で体を動かす心地良さや気持ち良さを感じる。 ○自分の力を発揮したり、競いあったりして、全身を動かして遊ぶ満足感を味わう。
○食事のマナーを知り、楽しく食事をする。 ○友だちと一緒に食べる喜びや楽しさを感じる。	○食事のマナーを守りながら、友だちと一緒に楽しく食べる。 ○料理名や食材に興味をもつ。	○食材を育てている人や調理している人に感謝の気持ちをもち、友だちと一緒に楽しんで食事をする。 ○さまざまな食材の種類や体への働きに関心をもつ。
○基本的生活習慣が身につくように、一人ひとりとかかわりながら、丁寧に知らせていく。 ○自分でしようとする気持ちを大切にし、必要に応じて援助する。 ○生活や遊びを通して、約束やルールがあることに気づかせ、繰り返し知らせていく。 ○一人ひとりの体力や運動機能を考慮しながら、思う存分体を動かせるような環境を用意する。	○一日の流れを明確にし、子どもが見通しをもって行動できるように環境を整える。 ○集団生活のきまりを知らせ、みんなが心地良く生活できる場を整える。 ○積極的にみんなで遊ぶ機会をもち、体を動かす楽しさを知らせていく。 ○友だちの遊びの様子や、楽しんでいることなどを、周りの友だちと共有できるようにする。	○基本的生活習慣が定着するように、一日の見通しをもたせ、時計を意識して行動できるようにする。 ○自分たちの生活に必要な行動やきまりがあることに気づかせ、自ら行動しようとする態度を大切にする。 ○危険なことを知らせ、安全・安心な行動が身につくようにする。 ○友だちと一緒に、体を十分に動かして遊ぶ機会を多く取り入れる。 ○自分なりの目標に向かって、精一杯力を出して取り組んでいる姿を受けとめ、励ましたり、共感したりしながら、自信をもてるようにする。 ○食品の種類や体への働きを伝え、食事の大切さを理解できるようにする。

		0歳(～6か月)	0歳(～15 か月)	1歳児	2歳児
つながる力	話す・伝えあう・言葉	○心地良い時は笑ったり、ほほ笑んだりし、不快な時は泣いて自分の欲求を伝えようとする。	○安心できる人と十分にかかわり、さまざまなことに興味をもち、模倣することを楽しむ。 ○ほしいものなどを片言や動作で伝えようとする。	○身の回りの大人や友だちに関心をもち、かかわろうとする。 ○ほしいものなどを指差しや身振りや簡単な言葉で伝えようとする。	○保育者や友だちと言葉のやりとりを楽しもうとする。 ○自分のしたいことやしてほしいことを、簡単な言葉や仕草で伝えようとする。
	きく・理解する・くみ取る	○音や声に反応して顔を向ける。 ○保育者の言葉かけに対して、喃語や表情で反応しようとする。	○保育者の言葉かけに対して、片言や動作で反応しようとする。 ○保育者に相手をしてもらうことを喜ぶ。 ○絵本を見せてもらうことを喜ぶ。	○保育者の言葉かけの内容を理解し、応えようとする。 ○褒められていることや叱られていることがわかる。 ○絵本を読んでもらうことを喜ぶ。	○自分の思いや行動のすべてが受け入れられないこともあることに気づく。 ○生活に必要な言葉がわかるようになる。 ○繰り返しのある絵本を楽しんだり、模倣したりする。
	共感・折りあう・協同性	○あやしてもらったり、ふれてもらったりすることを喜ぶ。 ○身近な大人との愛着関係や信頼関係をつくり、安心感や満足感を抱く。	○喃語や片言を優しく受けとめてもらい、保育者とのやりとりを楽しむ。 ○身近な大人と欲求や気持ちのやりとりをしようとし、思いがつながった時の喜びや満足感を感じる。	○保育者や友だちと簡単な言葉のやりとりや、一緒に遊ぶことを楽しむ。	○保育者と一緒に見立てやふり遊び、簡単なごっこ遊びを楽しむ。
	環境・援助	○一人ひとりの欲求を受容し、機嫌良く一人遊びを楽しんでいる時は、見守ったり優しく声をかけたりする。 ○笑ったり泣いたりする子どもの姿に愛情をもって優しく応え、発声に応答しながら喃語や表情を引き出す。 ○ゆったりと心地良く過ごせるように、子どもの小さな欲求を見のがさず受けとめ、快は一緒に喜び、不快は取りのぞくようにする。	○信頼できる特定の大人とのかかわりの中で、子どもの気づきや思いを受けとめる。 ○喃語や動作に込められている子どもの思いや気持ちをしっかりと受けとめ、言葉かけやほほ笑みかけで応える。 ○言葉や身振りをゆっくり、大きく、わかりやすく表現する。 ○月齢にあった絵本を用意する。	○安心できる保育者の見守りの中で、一人ひとりの子どもの気持ちを受けとめ、周りの大人や友だちとかかわる楽しさを伝える。 ○保育者の仲立ちのもと、友だちとかかわって楽しめる雰囲気を整える。 ○子どもが指差しや身振りで表現したことを受けとめ、ゆっくり、はっきりと応えたり、話しかけたりしながら言葉を引き出す。 ○遊びや生活の中で、次の行動をわかりやすい言葉で知らせていく。 ○発達にあった絵本を用意する。	○保育者が仲立ちし、それぞれの思いを代弁する。 ○周りの子どもとのふれあいが多くなると、自我のぶつかりあいも増えるため、その時々に相手の気持ちを伝えていく。 ○見立てやふり遊び、簡単なごっこ遊びのイメージを共有し、その中に入って保育者も遊ぶ。 ○絵本などを読みきかせ、言葉に対する興味をもてるようにする。

3歳児	4歳児	5歳児
○遊びや生活の中で、必要な言葉を使おうとする。 ○自分が思ったことや感じたことを言葉で伝えようとする。	○友だちと遊ぶ中で、自分の考えを伝えたり、友だちの考えを受け入れたりする。 ○自分や相手が思ったことや感じたことを伝えあう楽しさや喜びを感じる。 ○遊びや絵本などを通して文字に興味をもち、言葉遊びを楽しむ。 ○場面にあったあいさつがわかり、自分から積極的にしようとする。	○グループや友だち同士で話しあいながら遊びや活動を進める。 ○自分が思ったこと、感じたこと、経験したことを言葉で表現し、相手に伝えられた喜びや楽しさを感じる。 ○遊びや生活の中で文字を使って伝える楽しさを味わう。 ○友だちやさまざまな人とのかかわりの中で、自分から親しみをもってあいさつしたり、感謝の気持ちを表現したりする。
○保育者や友だちの話をきこうとする。 ○保育者に「なんで？」「どうして？」と質問する。 ○絵本や紙芝居などに親しみ、見たりきいたりすることを楽しむ。	○友だちや保育者の話を、親しみをもってきこうとする。 ○友だちとの遊びの中で、相手の話を理解したり、相手の気持ちに気づいたりする。 ○絵本や童話に親しみ、友だちや保育者と一緒に楽しむ。	○友だちの良さを受けとめ、友だちとかかわって遊ぶ楽しさを味わう。 ○自分の思いを伝えるだけでなく、相手の話をよくきき、互いに認めあい、心が通じあう喜びを実感する。 ○絵本や童話に親しみ、お話づくりなどを通して、友だちと一緒にイメージを広げながら楽しむ。
○保育者や友だちと簡単なルールのある遊びを楽しむ。 ○保育者や友だちと一緒に共通のイメージをもちながら、ごっこ遊びや表現遊びを楽しむ。 ○友だちとのトラブルを通して、友だちの思いに気づく。	○気のあう友だちと一緒に遊ぶことに喜びや楽しさを感じ、積極的に参加する。 ○遊びや生活の中でのさまざまな葛藤を通し、気持ちに折りあいをつけることを知る。	○友だちと一緒に、共通の目標に向かって、工夫したり、協力したりして、実現する喜びを味わう。 ○同年齢や異年齢の友だちと協同的な遊びを行うことで、協調性や折りあいの気持ちをもつ。
○子どもの思いや話をよくきき、子どもの気持ちを十分に受けとめながら、その場や状況に応じた言葉かけをする。 ○ぶつかりあいなどのトラブルでは、それぞれの気持ちを十分に受けとめ、保育者が代弁するなどして仲立ちをしていく。 ○繰り返し遊ぶ中で、友だちと一緒にルールを守って遊ぶ楽しさを味わえるようにする。 ○保育者や友だちと一緒に遊ぶ楽しさを共有できるように、保育者は思いを言葉で伝えるようにする。 ○友だちと一緒に絵本などをききながら、イメージを共有し広げるようにする。	○友だちの良さを気づかせ、一緒に生活する楽しさを味わえるようにする。 ○話したい、伝えたいと思う気持ちを大切に受けとめ共感し、子ども同士の関係を支えていく。 ○一人ひとりの思いが出せるようにし、喜びや自信をもって、友だちと楽しめるようにする。 ○トラブルが起きた時は、それぞれの思いを受けとめ、相手の気持ちにも気づき、折りあいをつけられるように仲立ちする。 ○さまざまな人とふれあう機会や場を大切にし、楽しんで参加できるようにする。	○友だちと協力して遊ぶ楽しさを味わえるように言葉かけを工夫する。 ○グループ活動の機会をもち、自分の思いを伝えたり、友だちの思いをきいたりしながら、思いを一つにして活動する経験をする。 ○トラブルが起きた時には、互いの思いを伝えあったり、折りあいをつけたりして解決できるように見守る。 ○異年齢児と交流し、自分より幼い子どもに優しく接し、年長者としての経験や力を発揮できるようにする。 ○さまざまな人と交流し、優しさにふれる体験を取り入れる。

		0歳(～6か月)	0歳(～15 か月)	1歳児	2歳児
考えてチャレンジする力	挑戦・達成・ねばり強さ	○腹這い姿勢で手足を十分動かして遊ぶ。	○保育者に援助されながらも、座る、這う、立つ、伝い歩き、一人歩きなど全身を使って動こうとする。	○身近な人やものに自発的にかかわっていき、新しい環境にふれていこうとする。	○さまざまなことに興味をもち、できたことに喜びを感じる。
	意欲・好奇心・探究心・活用	○動くものを目で追ったりする。 ○手にふれたものを見たり、なめたりして確認する。	○自然や身近なものに興味をもち、見たりふれたりする。	○体を十分に動かし、探索活動を楽しむ。 ○さまざまな素材にふれ、全身や手先、指先を使って遊ぶ。	○保育者や友だちがすることに興味をもち、やってみようとする。 ○自分の好きな遊びを見つけ、遊び込む。
	感性・表現・工夫	○自分の感情や気持ちを喃語や表情、動作によって表現する。	○簡単な言葉と動作が結びつく。 ○歌や音楽をきき、音にあわせて体を動かすことを喜ぶ。	○なぐりがきを楽しむ。 ○保育者と一緒に歌ったり、音楽にあわせて体を動かしたりすることを楽しむ。	○さまざまな素材や材料を使って、かいたり、つくったりして楽しむ。 ○好きな音楽にあわせて、自分から体を動かしたり、歌ったりして楽しむ。
	環境・援助	○子どもの心地良い姿勢で遊ばせながら、寝返りや腹這いの機会をできるだけ多くつくるようにする。 ○さわる、握る、なめるなどの感触を楽しむため、安全で清潔なものを用意する。 ○玩具は大きさ、形、色質など、発達状態に応じて選び、清潔に心がける。	○子どものやりたい気持ちを大切にして、安全な環境を整え、すぐに対応できるようにそばで見守る。 ○一人ひとりの発達状況に応じて、さまざまな動きを楽しめるようにして意欲を育てる。	○子どもが自分でしようとする気持ちを受けとめ、見守ったり、手助けしながら、直接見たりふれたりするなど、さまざまな探索活動を多くできる環境を用意する。 ○子どもの発見や驚きを受けとめ、好奇心や興味を満たし共有できるようにする。	○子どもが興味をもって楽しめるような環境を整える。 ○自らやってみようとする気持ちや繰り返しやってみようとする気持ちをもてるような言葉かけをする。 ○遊びの中に保育者も入り、子どものイメージがあっていくようにし、遊ぶ楽しさが膨らむようにする。

3歳児	4歳児	5歳児
○さまざまなことに興味をもち、自分でできることは自分でしようとする。	○友だちとイメージを共有しながら遊びを楽しみ、できた時の充実感を味わう。 ○初めてのことにも興味をもって挑戦する。	○自分なりのめあてをもって活動に取り組み、最後までやり遂げた達成感を味わう。 ○苦手なことにも繰り返し挑戦し、ねばり強く取り組もうとする。
○積極的に友だちと一緒に遊ぼうとする。 ○自分が好きな遊び以外のさまざまな遊びをしようとする。 ○身近なものや遊具に興味をもって積極的にかかわる。	○友だちと一緒にさまざまな遊びや活動に意欲的に取り組む。 ○遊びに必要なものを自分で考えて探し集め、活用して遊ぶ。 ○遊びや生活の中で、数や量、図形、文字、ものの性質に興味・関心をもつ。	○友だちと一緒に考えたり、試したり工夫したりして、遊びを発展させて楽しむ。 ○新しいことやわからないことを知った時の喜びや楽しさを感じる。 ○遊びや生活の中で、数や量、図形、文字、ものの性質への興味・関心が高まり、遊びの中に取り入れようとする。
○身近な材料や素材、用具を使って、かいたり、つくったりして楽しむ。 ○音楽にあわせて、歌ったり、リズム楽器を鳴らしたり、体を動かしたりして楽しむ。	○身近な材料や素材、用具を使って、自分のイメージにあわせて試したり、工夫したりして表現する。 ○音楽やリズムにあわせて体を動かし、自分なりの表現をすることを楽しむ。	○適切な素材や材料を使って、遊びに必要なものを友だちと一緒に工夫してつくったり、遊んだりして楽しむ。 ○友だちと一緒に音楽やリズムにあわせて踊ったり、共通の表現をしたりすることを楽しむ。
○一人ひとりの興味や関心をとらえ、じっくりと遊び込めるように場や時間を設定する。 ○一人ひとりの表現を認め、子どもが「できた」という喜びを共感し、満足感をもてるようにする。 ○保育者も一緒に遊びを楽しみながら、友だちの様子を見たり、誘いかけたりして仲立ちする。 ○イメージが広がるような素材を用意する。	○一人ひとりの遊びを見守り、必要に応じてアイデアやヒントを出し、遊びを援助したり、発展させたりする。 ○友だちと一緒にじっくりと遊び込めるような場や環境を工夫する。 ○さまざまな遊びに興味が広がるように環境を工夫し、満足感を味わえるようにする。 ○遊びの中に、数や量、図形、文字、ものの性質などにふれられるような環境をつくる。 ○さまざまな素材や用具を使いやすいように整理し、イメージにそって遊びに取り入れられるようにする。	○一人ひとりの良さや頑張りを認めあえるような場や機会を多くもつ。 ○目標や困難なことに向かってチャレンジしている姿を認め励まし、達成した時ややり通した時には、子どもと一緒に喜び、意欲や達成感を育てる。 ○目的をもって遊びを探究していく過程を大切にする。 ○友だちとルールを確認したり、教えあったりしながら、遊びを発展させる。 ○友だちと一緒にいろいろ試しながら、数や量、図形、文字、ものの性質などを活かした遊びができるようにする。 ○さまざまな素材や材料を用意し、友だちと一緒に協力しながら工夫して遊べる環境を整える。

参考　4つの育みたい力と5領域との関連

４つの育みたい力と幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示されている５領域との関連を以下のようにまとめました。なお、「◎」は特に関連がある力、「○」は関連がある力を表しています。

5領域	内容	ねらい	4つの育みたい力			
			大切にする力	元気に生活する力	つながる力	考えてチャレンジする力
健康	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。	①明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 ②自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 ③健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身につける。	○	◎		
人間関係	他の人々と親しみ、支えあって生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う。	①幼稚園・保育所生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。 ②身近な人と親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼感をもつ。 ③社会生活における望ましい習慣や態度を身につける。	◎	○	○	
環境	周囲のさまざまな環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。	①身近な環境に親しみ、自然とふれあう中でさまざまな事象に興味や関心をもつ。 ②身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。 ③身近な事象・事物を見たり、考えたり、扱ったりする中で、ものの性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。	○	○		◎
言葉	経験したことや考えたことなど自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉をきこうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。	①自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。 ②人の言葉や話などをよくきき、自分の経験したことや考えたことを話し、伝えあう喜びを味わう。 ③日常生活に必要な言葉がわかるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、保育者や友だちと心を通わせる。	○		◎	○
表現	感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。	①いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。 ②感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 ③生活の中でイメージを豊かにし、さまざまな表現を楽しむ。	○		○	◎

参考：幼稚園教育要領（平成 20 年）
保育所保育指針（平成 20 年）

3. 年齢別の教育・保育内容

「年齢別の教育・保育内容」としては、０歳～５歳の年齢ごとにめざす「子どもの姿」「ねらい」「教育・保育内容」「環境・援助」「家庭・地域との連携」などについて記載しています。

なお、年齢別の構成は、【０歳（～６か月）】【０歳（～15 か月）】【１歳児】【２歳児】【３歳児】【４歳児】【５歳児】の７区分としており、特に２歳児未満は子どもの成長と発達が著しいことから、３区分としています。

子どもの姿

めざす子どもの姿とその要素（子どもの様子など）を記載しています。

ねらい

めざす子どもの姿に向けて身につけてほしい力の内容・子どもの様子を記載しています。

発達過程

保育所保育指針に示されている、年齢ごとの発達過程を記載しています。

保育者の声

「八尾市教育・保育実践の手引き検討会議作業部会」において協議された年齢ごとの子どもの特徴を記載しています。

教育・保育内容

４つの育みたい力に基づく教育・保育内容やそのために必要な環境・援助の内容を記載しています。また、教育・保育内容を実現するために必要な、家庭・地域との連携の取組み内容を記載しています。

エピソード

子どもの成長につながった出来事をエピソードとして紹介しています。また、エピソードに対する解釈・評価として、保育者などの視点で記載しています。

おすすめ絵本

保育者が選んだ参考の絵本を紹介しています。なお、年齢ごとに記載していますが、必ずしもその年齢のみを対象として位置づけているものではありません。

① 0歳(～6か月)

子どもの姿

心地いい！気持ちいい！

- 表情や喃語で自分の欲求を表現する。
- 首がすわり、腹這い、寝返りができるようになる。
- 生理的な欲求や不快な気持ちを泣いて表す。
- 授乳、睡眠、遊びのリズムが徐々に身についてくる。

ねらい

- 特定の大人との愛着関係を築き、親しみと安心感をもって過ごす。
- 大好きな大人から声をかけられたり、あやされたりすると、笑ったり、声を出したりして喜ぶ。
- 「飲む」「眠る」「遊ぶ」が安定したリズムで機嫌良く過ごす。

発達過程

- 誕生後、母体内から外界への急激な環境の変化に適応し、著しい発達が見られる。
- 首がすわり、手足の動きが活発になり、その後、寝返り、腹這いなど全身の動きが活発になる。
- 視覚、聴覚などの感覚の発達はめざましく、泣く、笑うなどの表情の変化や体の動き、喃語などで自分の欲求を表現し、これに応答的にかかわる特定の大人との間に情緒的な絆が形成される。

保育者の声

「子どもが心地良く生活できるようにしましょう。」

生活の安定や心地良く過ごすことが大事です。生活をする中で、体や指先の発達、見たりきいたりする環境をちゃんと保障していきましょう。まだまだ人見知りの時期なので、特定の大人とちゃんと信頼関係を築いていきましょう。

教育・保育内容

	内容	環境・援助
大切にする力 自尊心・自信・安心・興味・関心・気づき・親しみ・道徳性・思いやり・感謝	○特定の人（身近な人）に愛されることで信頼感が芽生える。 ○適切な世話を受けて、心地良さや安心感をもつ。 ○手にふれたものを握ったり、耳にきこえた音に反応したりする。 ○身近な自然にふれる。 ○大人から向けられている気持ちを感じる。	○子どものさまざまな行動や欲求に気づき、受けとめることで、安心感や愛着をもたせる。 ○子どもと目をあわせ優しく語りかけながら身の回りの世話をする。 ○一人ひとりの体の様子や表情をよく観察し、不快に対するサインを察知し、愛情豊かに受容する。
元気に生活する力 自立・自主性・生活習慣・生活リズム・規範意識・ルール・安全・発達・運動・遊び・食事・食育	○特定の大人に親しみや安心感をもち、安定した気持ちで過ごす。 ○生理的欲求を満たしてもらい、安心して過ごす。 ○規則正しい生活に心地良さを感じ、安定した気持ちで過ごす。 ○動くものを目で追ったり、手を伸ばして握ろうとしたりする。 ○授乳、離乳を通して食べる喜びや楽しさを体験する。	○落ち着いた雰囲気の中で、一人ひとりの生活リズムにあわせた環境を整える。 ○一人ひとりにあわせた表情や言葉、動きで相手をし、1対1のかかわりを大切にしながら愛着関係を築く。 ○睡眠時の状態に十分な気配りをする。 ○衛生的な環境の中で生活する。
つながる力 話す・伝えあう・言葉・きく・理解する・くみ取る・共感・折りあう・協同性	○心地良い時は笑ったり、ほほ笑んだりし、不快な時は泣いて自分の欲求を伝えようとする。 ○音や声に反応して顔を向ける。 ○保育者の言葉かけに対して、喃語や表情で反応しようとする。 ○あやしてもらったり、ふれてもらったりすることを喜ぶ。 ○身近な大人との愛着関係や信頼関係をつくり、安心感や満足感を抱く。	○一人ひとりの欲求を受容し、機嫌良く一人遊びを楽しんでいる時は、見守ったり優しく声をかけたりする。 ○笑ったり泣いたりする子どもの姿に愛情をもって優しく応え、発声に応答しながら喃語や表情を引き出す。 ○ゆったりと心地良く過ごせるように、子どもの小さな欲求を見のがさず受けとめ、快は一緒に喜び、不快は取りのぞくようにする。
考えてチャレンジする力 挑戦・達成・ねばり強さ・意欲・好奇心・探究心・活用・感性・表現・工夫	○腹這い姿勢で手足を十分動かして遊ぶ。 ○動くものを目で追ったりする。 ○手にふれたものを見たり、なめたりして確認する。 ○自分の感情や気持ちを喃語や表情、動作によって表現する。	○子どもの心地良い姿勢で遊ばせながら、寝返りや腹這いの機会をできるだけ多くつくるようにする。 ○さわる、握る、なめるなどの感触を楽しむため、安全で清潔なものを用意する。 ○玩具は大きさ、形、色質など、発達状態に応じて選び、清潔に心がける。
家庭・地域との連携	○家庭と密に連絡を取りながら、子どもの健康の状態や把握に気をつけ、安定した生活リズムで過ごせるようにする。 ○子どもの日頃の様子を細やかに共有し、成長の喜びをともに感じあう。 ○親子のふれあいが子どもの心の安心、安定につながることを伝える。 ○保護者の育児不安を受けとめ、きくことでコミュニケーションをとっていく。 ○SIDS（乳幼児突然死症候群）やゆさぶり症候群について正しい知識を知らせ、注意を促す。	

エピソード

対象年齢　:0歳(～6か月)

育まれる力:　大切にする力　元気に生活する力　つながる力

「大人との愛着関係を深め、
安定した気持ちで生活する」

すやすや、すくすく

Aちゃんは入所当時、生活リズムが整わず、眠いせいか保育所内でも機嫌が悪く泣いてばかりいました。保護者とともに生活リズムを正していくと、保育所内でのAちゃんの機嫌も良くなっていきました。

こどもの姿

Aちゃんは、登所時間のぎりぎりまで寝ていて起こされて、登所してきました。保育者はそんなAちゃんの様子を保護者に伝え、生活リズムの大切さを知らせました。

生活リズムが安定してくると、Aちゃんは午前中に 25～30 分ほど眠り、自分から目覚めるようになりました。目が覚めると、保育者に来てほしくて泣いてしまいます。それを見た保育者が抱きかかえあやすと、Aちゃんは泣きやみ、見守られながら腹這いで機嫌良く過ごすようになりました。

保育所での生活リズムに慣れてきたAちゃんは、口元をとがらせて「ブブブー」と音を鳴らしては、自分できいて楽しむなど、遊びや表現の仕方が増えてきました。最近では、友だちの食べている姿を見てよだれが増え、食べられないことに怒ることもあります。

保育者の声

それぞれの家庭により、生活リズムもさまざまです。そのため保育所での生活に慣れず、中には機嫌が悪くなる子もいます。保護者にほんの少し努力をしてもらうことで、保育所での生活が一層楽しくなり、子どもの表情も遊びも変わっていきます。

ポイント

保育所に入所している子どもは、一日の多くの時間を所内で過ごしています。

そのため、保育者は保護者と家庭や保育所での様子を共有することが大切です。そのことが子どもの健やかな発達・成長につながります。

おすすめ絵本

「いない いない ばあ」
松谷 みよ子 瀬川 康男 童心社

「ばい ばい」
まついのりこ 偕成社

「くだもの」
平山和子 福音館書店

「くっついた」
三浦太郎 こぐま社

手遊び紹介

対象年齢　:0歳(～6か月)

いない　いない　ばあ

いない
いない　・・・

ばあ～

ちょち　ちょち　あわわ

ちょち　ちょち
①手をたたく

あわわ
②声を出しながら
手を口にあてる

かいぐり　かいぐり
③グーの両手を
ぐるぐる回す

とっとのめ
④片方の手のひらを
人差し指でつつく

おつむ　てんてん
⑤両手で軽く頭を
ぽんぽんさわる

ひじ　とんとん
⑥一方の手で反対の
肘をとんとんとさわる

ちっち　ここ　とまれ

ちっち　ここ　とまれ　とまらんちっちは
①子どもの手の甲を人差し指でつつく

とんでいけ～
②歌にあわせて人差し指を
飛ばすように上の方へあげる

② 0歳(～15 か月)

子どもの姿

ママ・パパがいい！先生大好き！

- 特定の大人とのやりとりから愛着が深まる。
- 身近な大人がわかり、慣れていない大人に人見知りをする。
- 座る、這う、立つ、伝い歩き、一人歩きなど、全身を使って動くことを楽しむ。

ねらい

- 特定の大人と十分にかかわり、欲求や要求が受けとめられ、安定した気持ちで過ごす。
- 保育者や友だち、身の回りのさまざまなものに興味や関心をもち、自分からかかわろうとする。
- 全身の運動機能や手指の機能が発達する。

発達過程

- 座る、這う、立つ、伝い歩きといった運動機能が発達すること、及び腕や手先を意図的に動かせるようになることにより、周囲の人やものに興味を示し、探索活動が活発になる。
- 特定の大人との応答的なかかわりにより、情緒的な絆が深まり、あやしてもらうと喜ぶなどやりとりが盛んになる一方で、人見知りをするようになる。
- 身近な大人との関係の中で、自分の意思や欲求を身振りなどで伝えようとし、大人から自分に向けられた気持ちや簡単な言葉がわかるようになる。
- 食事は、離乳食から幼児食へ徐々に移行する。

保育者の声

「運動機能が発達して、活発的な探索活動も始まります。」

体も少し大きくなってきて、生活リズムもできてきます。離乳食が始まれば、食べることの楽しさを感じさせることが大切です。ハイハイから一人歩きに移る時期でもあり、探索活動も始まります。喃語も発し、コミュニケーションの第一歩です。

教育・保育内容

	内容	環境・援助
大切にする力 自尊心・自信・安心・興味・関心・気づき・親しみ・道徳性・思いやり・感謝	○特定の人（身近な人）との愛着が深まる。 ○保育者からのふれあいや語りかけに対して応えようとしたりする。 ○周囲の人やものへの興味が芽生えてくる。 ○身近な自然を見たり、ふれたりして、関心をもつ。 ○大人から向けられている気持ちに応えようとする。	○特定の大人との愛着関係を大切にしながら、安定して過ごせる雰囲気をつくる。 ○一人ひとりの子どもとのふれあいを多くもち、欲求や要求に愛情をもって応え、信頼関係を築いていく。 ○子どもが表現したことを受けとめ、優しく、ゆっくり、はっきりと応えたり、語りかけたりする。
元気に生活する力 自立・自主性・生活習慣・生活リズム・規範意識・ルール・安全・発達・運動・遊び・食事・食育	○身の回りのさまざまなものに気づき、かかわっていこうとする。 ○一人ひとりの生活リズムが安定して眠ったり、食事したりする。 ○保育者の言葉かけに対して、応えようとする。 ○一人ひとりの発達にあった体の活動を十分に行う（座る、這う、立つ、伝い歩き、一人歩き）。 ○離乳食を喜んで食べ、さまざまな食べ物を味わう。	○特定の保育者とのかかわりを多くもち、甘え、不安、人見知りなどの気持ちや仕草を受けとめ、優しく対応する。 ○一人ひとりの生活リズムを大切にし、生理的欲求を受けとめ十分に満たす。 ○離乳食は家庭との連携を大切に無理なく進め、食べようとする気持ちを育てる。
つながる力 話す・伝えあう・言葉・きく・理解する・くみ取る・共感・折りあう・協同性	○安心できる人と十分にかかわり、さまざまなことに興味をもち、模倣することを楽しむ。 ○ほしいものなどを片言や動作で伝えようとする。 ○保育者の言葉かけに対して、片言や動作で反応しようとする。 ○保育者に相手をしてもらうことを喜ぶ。 ○絵本を見せてもらうことを喜ぶ。 ○喃語や片言を優しく受けとめてもらい、保育者とのやりとりを楽しむ。 ○身近な大人と欲求や気持ちのやりとりをしようとし、思いがつながった時の喜びや満足感を感じる。	○信頼できる特定の大人とのかかわりの中で、子どもの気づきや思いを受けとめる。 ○喃語や動作に込められている子どもの思いや気持ちをしっかりと受けとめ、言葉かけやほほ笑みかけで応える。 ○言葉や身振りをゆっくり、大きく、わかりやすく表現する。 ○月齢にあった絵本を用意する。
考えてチャレンジする力 挑戦・達成・ねばり強さ・意欲・好奇心・探究心・活用・感性・表現・工夫	○保育者に援助されながらも、座る、這う、立つ、伝い歩き、一人歩きなど全身を使って動こうとする。 ○自然や身近なものに興味をもち、見たりふれたりする。 ○簡単な言葉と動作が結びつく。 ○歌や音楽をきき、音にあわせて体を動かすことを喜ぶ。	○子どものやりたい気持ちを大切にして、安全な環境を整え、すぐに対応できるようにそばで見守る。 ○一人ひとりの発達状況に応じて、さまざまな動きを楽しめるようにして意欲を育てる。
家庭・地域との連携	○家庭と連携を取りながら一人ひとりの子どもの心身の状態を把握する。 ○家庭と密に連絡を取りながら、食欲、睡眠、排泄などの子どもの心身の状態を共有する。 ○家庭と連携して離乳食を無理なく進めるとともに、献立や味づけなどのアドバイスをする。 ○人見知りは親子の愛着関係や信頼関係があるから生じるものであることを知らせる。 ○子どもの喜びに共感したり、思いをくみ取って言葉に代えたりすることの大切さを伝える。	

エピソード

対象年齢　:0歳(～15 か月)

育まれる力:　大切にする力　つながる力

「子ども同士が認めあう力を育む」

友だちと一緒にいたい！

入所してまもないAちゃん。朝早くから登所し、保育者と1対1で過ごす時間が長いですが、保育者と2人の時は、1人遊びを楽しむことができません。でも、Bちゃんが登所すると、保育者から離れ、自分で遊びだしました。

こどもの姿

朝早く登所したAちゃん。入所して間もないこともあり、保育者に抱かれたまま、ぐずぐずと言い、離れることができません。保育者はAちゃんが機嫌良く遊べるように、おもちゃを見せて、遊びに誘いますが、機嫌は直りません。保育者は“Aちゃんの気持ちが落ち着くなら”と、抱いたままで、30 分以上過ごしました。

そこへ、Bちゃんがお母さんと一緒にやってきました。保育室の戸が開き、Bちゃんの姿を見たとたん、笑顔になり声を出して喜ぶAちゃん。ハイハイでBちゃんの所まで動いていきました。Bちゃんも、言葉にならない声を出し、Aちゃんを見ています。

保育者から離れたAちゃん。朝の用意ができたBちゃん。2人はそれぞれの好きな遊びを見つけて遊びだしました。

保育者の声

まだまだ何もできないと思われがちな0歳児ですが、日々、着々と成長していきます。

家庭から保育所の集団の中へ、環境が変わると不安になることも多いですが、その思いを保育者が受けとめるとともに、一緒に過ごす子ども同士が、(安定した生活への)力になると思った一コマでした。

ポイント

まだ“友だち”と呼ぶのには浅い関係ですが、「子ども同士がふれあうことを喜ぶ」というのは、よく見られる光景です。

この0歳児なりの「子ども同士が認めあう」関係を大切に見守り、育てていくことが、“お互いが認めあう集団づくり”の基礎になるのではと思います。

おすすめ絵本

「もこ もこもこ」
谷川俊太郎　元永定正　文研出版

「がたん ごとん がたん ごとん」
安西水丸　福音館書店

「ぴょーん」
まつおかたつひで　ポプラ社

エピソード

対象年齢　:0歳(～15か月)

育まれる力:　大切にする力　元気に生活する力　つながる力

「友だちと優しくかかわれる力を育む」

ペンペンしたら痛いね

Cちゃんが友だちの頭をペンペンしていたので、保育者が「優しく、よしよしね。」として見せると、Cちゃんもマネをし始めました。それ以降、保育者が「優しくね。」と声をかけると、ペンペンせずにそーっとなでるようになりました。

こどもの姿

Cちゃんは積み木で一人遊びを楽しんでいるDちゃんのそばに行き、顔を見ながら頭をペンペンしていました。Cちゃんは積み木を取ろうとする様子ではありませんでしたが、Dちゃんは困ったような悲しい表情をしていました。

保育者が「Cちゃん、お友だちに優しくね。よしよし。」と、そばにいたEちゃんの頭をそーっとなでて見せると、Cちゃんもマネをして、Dちゃんの頭をそーっとなでました。保育者が「Cちゃんありがとう。優しいね。」と言うと、Cちゃんは周りのお友だちや保育者の頭も笑ってそーっとなで始めました。

それ以降、友だちをペンペンたたく姿が見られた時に、保育者が「優しくね。」と声をかけると、そーっとなでるようになりました。

保育者の声

友だちとのかかわり方がまだわからない月齢なので、保育者が言葉と行動で知らせることが大切だと思います。

相手の気持ちも「ペンペンされたら痛いね。」と伝えたらよかったかもしれません。

ポイント

子どもの行動を正す時には、保育者が例を見せながら優しくわかりやすく伝えることが大切です。

また、子どもがその場限りの行動にならないよう、子どもの様子を見守り、定着させることが必要です。

おすすめ絵本

「たまごのあかちゃん」
神沢利子　柳生弦一郎　福音館書店

「いいおかお」
松谷みよ子　瀬川康男　童心社

「もうねんね」
松谷みよ子　瀬川康男　童心社

③ 1歳児

子どもの姿

興味津々！探索大好きっ子！

- 安定して一人歩きができる。
- 歩く、押す、つまむ、引っ張るなどの運動の種類が増え、行動範囲が広がる。
- 身近な人や身の回りのものに自発的にかかわろうとする。

ねらい

- 保育者が一人ひとりの体調や生活リズムを大切にし、不安な気持ちや甘えたい気持ちを受けとめることで、子どもが安心した気持ちで過ごす。
- 保育者とのかかわりをもとに、自分の思いを言葉や行動で表現し、伝える喜びを味わう。
- 探索活動を通じて、十分にきく、見る、ふれる等の経験をし、周りの環境に興味や好奇心をもつ。
- 快適に生活できる環境のもとで、食事、排泄など身の回りのことに興味をもち、自分でやってみようとする。

発達過程

- 歩き始め、手を使い、言葉を話すようになることにより、身近な人や身の回りのものに自発的に働きかけていく。
- 歩く、押す、つまむ、めくるなどさまざまな運動機能の発達や新しい行動の獲得により、環境に働きかける意欲を一層高める。
- ものをやりとりしたり、取りあったりする姿が見られるとともに、玩具などを実物に見立てるなどの象徴機能が発達し、人やものとのかかわりが強まる。
- 大人の言うことがわかるようになり、自分の意思を親しい大人に伝えたいという欲求が高まる。指差し、身振り、片言などを盛んに使うようになり、二語文を話し始める。

保育者の声

「人やものに対する興味・関心が強くなる時期です。」

0歳児と比べると、とても成長しているのを感じます。走ったり、跳んだり、指先が器用になったり。身の回りのことを自分でしようとする時期です。言葉も増え、大人や友だちに思いを伝えようとしてきます。この時期くらいから友だちを意識し始めます。

教育・保育内容

	内容	環境・援助
大切にする力 自尊心・自信・安心・興味・関心・気づき・親しみ・道徳性・思いやり・感謝	○自分の思いを指さしや身振りや簡単な言葉などで伝えようとする。 ○保育者や友だちと一緒にいることに喜びをもったり、楽しんだりする。 ○身近な生活の模倣や見立て遊びを楽しむ。 ○身近な動植物に関心をもつ。 ○さまざまな遊具や用具にふれる。 ○大人の言うことに応えようとする。	○特定の大人との愛着関係をもとに、情緒の安定をはかり、思いを共有する。 ○模倣や見立て遊びができるように、変化があって楽しめるような環境を工夫する。 ○身近な動植物に関心がもてるように、一緒に見たり、ふれたり、語りかけたりする。 ○子どもの発達や興味にあった遊具を用意し、十分に楽しめるようにする。
元気に生活する力 自立・自主性・生活習慣・生活リズム・規範意識・ルール・安全・発達・運動・遊び・食事・食育	○食事、着脱、排泄などの身の回りのことに興味をもち、自分でしようとする。 ○一定時間安定して眠る。 ○保育者の言葉かけがわかり、行動しようとする。 ○歩行が完成し、行動範囲が広がり、歩くことを楽しむ。 ○さまざまな食べ物に興味をもち、保育者の援助を受けながらスプーンやフォークを使って楽しく食事をする。	○落ち着いた雰囲気の中で、自分でしようとする気持ちを受けとめ、興味・関心がもてるようにする。 ○安全で活動しやすい環境を整える。 ○発育、発達を考慮し、一人ひとりが満足して遊べるように環境を整える。
つながる力 話す・伝えあう・言葉・きく・理解する・くみ取る・共感・折りあう・協同性	○身の回りの大人や友だちに関心をもち、かかわろうとする。 ○ほしいものなどを指差しや身振りや簡単な言葉で伝えようとする。 ○保育者の言葉かけの内容を理解し、応えようとする。 ○褒められていることや叱られていることがわかる。 ○絵本を読んでもらうことを喜ぶ。 ○保育者や友だちと簡単な言葉のやりとりや、一緒に遊ぶことを楽しむ。	○安心できる保育者の見守りの中で、一人ひとりの子どもの気持ちを受けとめ、周りの大人や友だちとかかわる楽しさを伝える。 ○保育者の仲立ちのもと、友だちとかかわって楽しめる雰囲気を整える。 ○子どもが指差しや身振りで表現したことを受けとめ、ゆっくり、はっきりと応えたり、話しかけたりしながら言葉を引き出す。 ○遊びや生活の中で、次の行動をわかりやすい言葉で知らせていく。 ○発達にあった絵本を用意する。
考えてチャレンジする力 挑戦・達成・ねばり強さ・意欲・好奇心・探究心・活用・感性・表現・工夫	○身近な人やものに自発的にかかわっていき、新しい環境にふれていこうとする。 ○体を十分に動かし、探索活動を楽しむ。 ○さまざまな素材にふれ、全身や手先、指先を使って遊ぶ。 ○なぐりがきを楽しむ。 ○保育者と一緒に歌ったり、音楽にあわせて体を動かしたりすることを楽しむ。	○子どもが自分でしようとする気持ちを受けとめ、見守ったり、手助けしながら、直接見たりふれたりするなど、さまざまな探索活動を多くできる環境を用意する。 ○子どもの発見や驚きを受けとめ、好奇心や興味を満たし共有できるようにする。
家庭・地域との連携	○連絡帳や登降園（所）時の保護者との会話の中で、家庭での様子や園（所）での様子を伝えあい、保護者との信頼関係を築いていく。 ○一人ひとりの発達の状況にあわせて対応していくことの大切さを保護者に伝える。 ○家庭と密に連絡を取り、保護者・子どもへ保健指導をしながら、一人ひとりの生活リズムをつくっていく。 ○子どもの働きかけを受けとめ、言葉をかけながら対応することが、言葉の発達につながることを保護者に伝える。	

エピソード

対象年齢　：1歳児

育まれる力：大切にする力　つながる力

「自分と違う友だちの存在を理解する力を育む」

トラブル

おもちゃの紙コップを高く積もうと遊んでいるAちゃんとBちゃん。Aちゃんが、Bちゃんの紙コップもほしいと言い出して、トラブルになりました。保育者が2人の紙コップをあわせて高くすると、AちゃんとBちゃんは喜び、その場がなごんでいきました。

こどもの姿

Aちゃんは、保育者と一緒に紙コップを重ねて遊んでいました。高くなっていく紙コップがおもしろくて、倒れてもまた重ねて遊んでいるAちゃんと保育者。それを見たBちゃんが、一緒に遊びたいとやってきました。保育者が「Bちゃん、一緒に遊びたいんだって。遊んでいい？」ときくと、Aちゃんはしばらく考えてから、Bちゃんにコップを渡しました。2人は保育者を仲立ちとしながら、互いに自分の紙コップを重ね、2人仲良く遊んでいました。

しばらくは、並んで仲良く、自分の紙コップを重ねて遊んでいたAちゃんとBちゃん。しかし、もっと高くしたかったAちゃんが、Bちゃんの紙コップを取ろうとしました。紙コップがほしいAちゃん。あげたくないBちゃん。2人の間でトラブルが起きました。

保育者が「Aちゃん、Bちゃんの紙コップよ。」「Bちゃん、Aちゃんがほしいんだって、あげる？」と言っても、2人とも納得しません。困った保育者は「じゃあ、2人の紙コップを一緒にしてみようか？」と、その紙コップをあわせて、もっともっと高くすると、2人は顔を見あわせて笑いあいました。

保育者の声

自分とは違う“友だちの存在”を、少しずつ理解できるようになった1歳児ですが、まだまだ自分の要求が一番です。“貸してあげる”“でも、自分がほしい時は、自分のもの”でトラブルになることもしょっちゅうです。紙コップをもっと用意することもできますが、用意できない時もあります。今回は、保育者の適切な助言により遊びへ発展させたことで、トラブルが“楽しい遊び”に変わりました。

ポイント

1歳児は行きつ戻りつしながら成長していきます。保育者は「どうして貸してあげられないの？」と思いがちですが、それが発達段階であることを理解して、対応することが必要です。

おすすめ絵本

「だるまさんが」
かがくいひろし　ブロンズ新社

「きんぎょがにげた」
五味太郎　福音館書店

「ぞうくんのさんぽ」
なかのひろたか　福音館書店

エピソード

対象年齢　：1歳児

育まれる力：大切にする力　元気に生活する力　つながる力

「自分に対する思いやりの気持ちに気づくことで、
相手を思う気持ちを育む」

貸して！！

自分の思い通りにならないと、すぐにひっくり返って泣いて怒ってしまうCちゃん。友だちからほしいおもちゃを貸してもらったことで、自分からも貸してあげることができるようになりました。

こどもの姿

ままごとコーナーで遊んでいたCちゃん。Dちゃんの使っているしょうゆさしがほしくて何も言わずもってきて使っていると、Dちゃんに取り返され「ギャー」と泣いてひっくり返って怒りました。保育者がCちゃんを抱き起こし、「これがほしかったの？先生といっしょに貸してって言おうか。」と気持ちを代弁します。

保育者はCちゃんにきこえるように、「Dちゃんが使ったら、次はCちゃんに貸してあげてね。」とDちゃんに頼みました。Cちゃんの様子や保育者の言葉から、Dちゃんはすぐにしょうゆさしを渡しました。保育者はDちゃんに「ありがとうDちゃん。」と言い、Cちゃんには「Dちゃん、貸してくれたね。」と言いました。Cちゃんは泣きやんで、しょうゆさしを受け取り遊び始めました。

保育者はCちゃんに「Dちゃんにもまた、貸してあげてね。」と言いましたが、Cちゃんはしょうゆさしをちゃんから届かないように離してもっています。保育者はDちゃんに「Dちゃん貸してくれたから、きっとCちゃんも貸してくれるよ。」と話しかけました。

すると、Cちゃんはしょうゆを入れるふりをしてから、無言でDちゃんにしょうゆさしをつき出しました。保育者は「Cちゃんすごいね。Dちゃんに貸してあげられたね。」と言うと、Cちゃんは少し得意気。しばらく貸し借りの援助をしながら遊びを見守りました。

保育者の声

自分の気持ちを態度で表現する子どもたち。保育者が代わって、子どもの思いを言葉に出して相手の子どもに伝えることで、互いの気持ちも落ち着き、相手の出方を見られるようになっていきました。

保育者が見守りながら、待てたり、貸してあげられたことを褒め、自信につなげていくことが大切です。これからも、このような機会をとらえ、寄り添っていきたいと思います。

ポイント

子どもはまだ、自分の思いや考えを伝えるだけの表現力や理解力が不十分なため、保育者としては、子どもの思いや考えの“交通整理”をし、言葉によるコミュニケーションを成立させながら、双方が納得するように子どもの考えを誘導していくことが重要です。

おすすめ絵本

「おててがでたよ」
林明子　福音館書店

「ももんちゃんのっしのっし」
とよたかずひこ　童心社

「みんなうんち」
五味太郎　福音館書店

④ 2歳児

子どもの姿

自分で！自分で！

- 自我が芽生え、強く自己主張するようになり、何でも「自分で」とやりたがる。
- 基本的な運動機能が伸び、走ったり、跳んだりするなど、自分の体を思うように動かすことができる。
- 食事、衣類の着脱など、身の回りのことを自分でしようとする。

ねらい

- 保育者が一人ひとりの体調や生活リズムを把握することで、子どもが快適な気持ちで過ごす。
- 安心できる保育者のもとで十分に自己主張をする。
- 友だちや保育者と一緒に体を動かすことを楽しむ。
- 保育者に見守られながら、身の回りのことを自分でしようとする。

発達過程

- 歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動機能や、指先の機能が発達する。それに伴い、食事、衣類の着脱など身の回りのことを自分でしようとする。
- 排泄の自立のための身体的機能も整ってくる。
- 発声が明瞭になり、語彙も著しく増加し、自分の意思や欲求を言葉で表現できるようになる。
- 行動範囲が広がり探索活動が盛んになる中、自我の育ちの表れとして、強く自己主張する姿が見られる。
- 盛んに模倣し、物事の間の共通性を見いだすことができるようになるとともに、象徴機能の発達により、大人と一緒に簡単なごっこ遊びを楽しむようになる。

保育者の声

「自己主張が強くなる時期です。
何でも自分でやりたがるようになります。」

身の回りのことを手伝ってもらいながらもできるようになってきます。コミュニケーションについては、大人がつないであげることが必要です。その他、何でも「イヤ！」と言って拒みがちなところもありますが、“自分で”という自我の育ちもあるので、大人が大切に受けとめてあげましょう。

教育・保育内容

	内容	環境・援助
大切にする力 自尊心・自信・安心・興味・関心・気づき・親しみ・道徳性・思いやり・感謝	○自己主張する中で、自分が思っていることやしてほしいことを表現する。 ○保育者に援助されながら自分でできたという喜びを感じる。 ○身近な環境に興味をもち、かかわろうとする。 ○身近な動植物を見たり、ふれたりして関心が高まる。 ○保育者に援助されながら遊具を片づけようとする。 ○保育者が仲立ちとなり、友だちの気持ちに気づく。	○一人ひとりの子どもの気持ちを受けとめ、信頼関係を築く。 ○子どもが自分からしてみようとする行動を大切にし、温かく見守る。 ○一人ひとりの発達や興味をとらえ、楽しく遊べるような環境をつくっていく。
元気に生活する力 自立・自主性・生活習慣・生活リズム・規範意識・ルール・安全・発達・運動・遊び・食事・食育	○保育者に見守られながら、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ○簡単な生活リズムがわかる。 ○保育者からの言葉かけで、約束やルールがあることを知る。 ○歩いたり、跳んだり、体を動かしたりして、遊ぶことを楽しむ。 ○スプーンやフォークの正しいもち方を知り、楽しく食事をする。 ○身近な人と一緒に食べる喜びや楽しさを感じる。	○一人ひとりにあった援助をしながら、自分でしようとする気持ちを育てる。 ○生活や遊びの中に約束やルールがあることを、繰り返し伝えていく。 ○楽しみながら体を動かせる遊びを取り入れる。 ○一人ひとりの発達を踏まえながら、体を使った遊びが十分楽しめるような環境を工夫する。
つながる力 話す・伝えあう・言葉・きく・理解する・くみ取る・共感・折りあう・協同性	○保育者や友だちと言葉のやりとりを楽しもうとする。 ○自分のしたいことやしてほしいことを、簡単な言葉や仕草で伝えようとする。 ○自分の思いや行動のすべてが受け入れられないこともあることに気づく。 ○生活に必要な言葉がわかるようになる。 ○繰り返しのある絵本を楽しんだり、模倣したりする。 ○保育者と一緒に見立てやふり遊び、簡単なごっこ遊びを楽しむ。	○保育者が仲立ちし、それぞれの思いを代弁する。 ○周りの子どもとのふれあいが多くなると、自我のぶつかりあいも増えるため、その時々に相手の気持ちを伝えていく。 ○見立てやふり遊び、簡単なごっこ遊びのイメージを共有し、その中に入って保育者も遊ぶ。 ○絵本などを読みきかせ、言葉に対する興味をもてるようにする。
考えてチャレンジする力 挑戦・達成・ねばり強さ・意欲・好奇心・探究心・活用・感性・表現・工夫	○さまざまなことに興味をもち、できたことに喜びを感じる。 ○保育者や友だちがすることに興味をもち、やってみようとする。 ○自分の好きな遊びを見つけ、遊び込む。 ○さまざまな素材や材料を使って、かいたり、つくったりして楽しむ。 ○好きな音楽にあわせて、自分から体を動かしたり、歌ったりして楽しむ。	○子どもが興味をもって楽しめるような環境を整える。 ○自らやってみようとする気持ちや繰り返しやってみようとする気持ちをもてるような言葉かけをする。 ○遊びの中に保育者も入り、子どものイメージがあっていくようにし、遊ぶ楽しさが膨らむようにする。
家庭・地域との連携	○子どもの自己主張を大切にしながら、受け入れられないこともあることを、家庭生活の中でも意識してもらえるよう保護者に知らせる。 ○保護者に子どもの状態にあわせて、着脱の仕方や基本的生活習慣の身につけ方を知らせ、幼稚園・保育所と家庭がともに進める。 ○子どもと一緒に見立て遊びやごっこ遊びをすることで、子どもとの愛着関係や信頼関係が深まることを保護者に伝える。 ○子どもが危ないことやいけないことをした時には、しっかりと言葉で注意して、理解させることが大切なことを保護者に伝える。	

エピソード

対象年齢　:2歳児

育まれる力:　大切にする力　元気に生活する力　つながる力

「友だちと気持ちの折りあいをつけながら遊ぶ力を育む」

あかん！

Aちゃんが汽車をつないだり走らせたりして遊んでいたところへBちゃんがやってきて汽車を取りあげ逃げていきました。そのような姿が繰り返される中で、保育者が根気よく2人の仲立ちをすることで、AちゃんとBちゃんは仲良く遊べるようになりました。

こどもの姿

Aちゃんは汽車が好きでつないだり走らせたりして遊んでいました。そこへその遊びに興味をもったBちゃんがやってきて、何も言わずつないだ汽車をつぶしてしまいます。「あかん！」とAちゃんが叫ぶと、Bちゃんは汽車をもって走って逃げてしまいました。Aちゃんは追いかけてBちゃんの背中を押して怒りました。

保育者はAちゃんには「せっかくつくったのにつぶされて悲しかったね。やめてって言おうね。」、Bちゃんには「ほしかったの？貸してって言おうね。」と2人の仲立ちになり話をしました。すると、AちゃんとBちゃんはうなづいてその場を離れました。

このような姿が何度もくり返されましたが、根気よくかかわることで、最近では「貸して。」「あかん。」「どっちか一つ貸してあげて。」を選択させながら、「いいよ。」「順番。」などの言葉が出てきて、保育者をまじえて仲良く遊べるようになってきました。

保育者の声

自我を押し通す時期でもあり、自分の思いや要求を言葉で十分伝えられない年齢でもあります。うまく伝えられないところを繰り返し保育者が仲立ちとなって伝えてあげることで、互いの気持ちも安定し、少しずつうまく遊べるようになってきたと思います。

ポイント

さまざまな遊びを通じて子どもたちが自我を出し、それを保育者が受けとめサポートしながら、友だちと楽しく遊べるよう仲立ちとなってあげることが大切です。

おすすめ絵本

「でんしゃにのって」
とよたかずひこ　アリス館

「あおくんときいろちゃん」
レオ・レオニ　藤田圭雄　至光社

「どんどこももんちゃん」
とよたかずひこ　童心社

エピソード

対象年齢　:2歳児

「子ども同士が相手を認めあい、
自然とつながりあう力を育む」

育まれる力:　大切にする力　元気に生活する力　つながる力

2か月ぶりに登所した友だち

長期欠席から戻ってきたCちゃん。クラスの友だちとも久しぶりの再会でしたが、緊張した様子でなかなか友だちとの遊びに入っていけません。そんなCちゃんを無理やり遊びに誘わず見守っていると、自然と友だちとの遊びに入り、いつもの姿に戻りました。

こどもの姿

Cちゃんは、0歳児クラスからともに生活して大きくなってきた男の子。今回母親の里帰り出産のため、長期の欠席になっていることをクラスの友だちも知っています。無事に弟が誕生し、約2か月ぶりにCちゃんが登所してきました。

久しぶりに登所したCちゃん。恥ずかしそうな、緊張した様子でみんなの様子をうかがっており、なかなか遊びの中に入れません。クラスの子どもたちは無理に声をかけるでもなく、遊びに誘うでもなく、いつもと同じ姿で過ごしていますが、Cちゃんのことを気にしています。

少しずつ少しずつCちゃんの緊張もほぐれ、いつの間にか遊びの中に入って、友だちと以前のように遊んでいました。

保育者の声

自我が芽生える時期ですが、しっかりと周りの友だちのことを意識し、生活していく力も育まれています。

長期欠席していた子どもは、時間をかけて様子を見守っていると緊張もとけ、自分からいつもの姿に戻ることもあります。

ポイント

子どもが成長していくためには、時には保育者が援助をしながらも、子どもたちの自主的な行動を見守ることが大切です。

おすすめ絵本

「しろくまちゃんのほっとけーき」
わかやまけん　もりひさし　わだよしおみ
こぐま社

「やさいのおなか」
きうちかつ　福音館書店

「おおきなかぶ」
A･トルストイ　佐藤忠良　内田莉莎子
福音館書店

⑤ 3歳児

子どもの姿

自分がいちばん！

- 友だちの中で自己を主張しながら遊ぶが、平行遊びである。
- 基本的な生活習慣が身につくようになる。
- 全身を使ってさまざまな遊びが楽しめるようになる。

ねらい

- 友だちとかかわって、遊ぶことを楽しむ。
- 全身を使ったさまざまな遊びを楽しむ。
- 見通しをもちながら、身の回りのことを自分でしようとする。

発達過程

- 基本的な運動機能が伸び、手指の器用さも増し、それに伴い、食事、排泄、衣類の着脱などもほぼ自立できるようになる。
- 話し言葉の基礎ができて、盛んに質問するなど知的興味や関心が高まる。
- 自我がよりはっきりしてくるとともに、友だちとのかかわりが多くなるが、実際には、同じ遊びをそれぞれが楽しんでいる平行遊びであることが多い。
- 大人の行動や日常生活において経験したことをごっこ遊びに取り入れたり、象徴機能や観察力を発揮して、遊びの内容に発展性が見られるようになる。
- 予想や意図、期待をもって行動できるようになる。

保育者の声

「友だちとのかかわりが多くなって、集団遊びが始まる時期です。」

“自分で”という自我を友だちとのかかわりの中で出させてあげることが大事です。平行遊びから集団遊びになる時期でもあるからです。また、生活リズムが整ってきて、自分で少し見通せるようにもなるので、保育者が褒めたり、励ましたりして子どもたちのやる気や自信をつけていきましょう。「なんで？」「どうして？」の質問も多くなりますが、大人はしっかりと受けとめていきましょう。

教育・保育内容

	内容	環境・援助
大切にする力 自尊心・自信・安心・興味・関心・気づき・親しみ・道徳性・思いやり・感謝	○自分の気持ちがわかり、自分なりの言葉や方法で相手に伝えようとする。 ○全身を使った遊びや身の回りのことが自分でできたという喜びや自信をもつ。 ○身近な環境への興味・関心が高まり、自分なりに表現しようとする。 ○身近な動植物を見たり、ふれたりして、親しみをもつ。 ○さまざまな遊具や用具を大切にしながらふれたり、遊んだりする。 ○友だちの気持ちを感じ取ろうとする。	○一人ひとりの思いを受けとめたり、見守ったりしながら様子を見守り、「できた」という満足感を味わえるようにする。 ○一人ひとりの発達や興味をとらえ、必要に応じて手助けしたり励ましたりして、自分でしようとする気持ちを育てる。 ○気のあう友だちとの遊びを大切にし、他の友だちとも関係が広がっていくように仲立ちする。 ○友だちと一緒にする遊びが十分に楽しめるような遊具を用意し、楽しめるようにする。
元気に生活する力 自立・自主性・生活習慣・生活リズム・規範意識・ルール・安全・発達・運動・遊び・食事・食育	○簡単な身の回りのことを自分からしようとする。 ○食事・着脱・排泄などの身の回りのことを自分でしようとする習慣が身につく。 ○一日の生活の流れを意識しようとする。 ○生活や遊びの中でさまざまな約束やルールがあることを知り、守ろうとする。 ○走る、跳ぶ、転がるなど、自分の体の動きをコントロールしながら全身を使った遊びを楽しむ。 ○食事のマナーを知り、楽しく食事をする。 ○友だちと一緒に食べる喜びや楽しさを感じる。	○基本的生活習慣が身につくように、一人ひとりとかかわりながら、丁寧に知らせていく。 ○自分でしようとする気持ちを大切にし、必要に応じて援助する。 ○生活や遊びを通して、約束やルールがあることに気づかせ、繰り返し知らせていく。 ○一人ひとりの体力や運動機能を考慮しながら、思う存分体を動かせるような環境を用意する。
つながる力 話す・伝えあう・言葉・きく・理解する・くみ取る・共感・折りあう・協同性	○遊びや生活の中で、必要な言葉を使おうとする。 ○自分が思ったことや感じたことを言葉で伝えようとする。 ○保育者や友だちの話をきこうとする。 ○保育者に「なんで？」「どうして？」と質問する。 ○絵本や紙芝居などに親しみ、見たりきいたりすることを楽しむ。 ○保育者や友だちと簡単なルールのある遊びを楽しむ。 ○保育者や友だちと一緒に共通のイメージをもちながら、ごっこ遊びや表現遊びを楽しむ。 ○友だちとのトラブルを通して、友だちの思いに気づく。	○子どもの思いや話をよくきき、子どもの気持ちを十分に受けとめながら、その場や状況に応じた言葉かけをする。 ○ぶつかりあいなどのトラブルでは、それぞれの気持ちを十分に受けとめ、保育者が代弁するなどして仲立ちをしていく。 ○繰り返し遊ぶ中で、友だちと一緒にルールを守って遊ぶ楽しさを味わえるようにする。 ○保育者や友だちと一緒に遊ぶ楽しさを共有できるように、保育者は思いを言葉で伝えるようにする。 ○友だちと一緒に絵本などをききながら、イメージを共有し広げるようにする。
考えてチャレンジする力 挑戦・達成・ねばり強さ・意欲・好奇心・探究心・活用・感性・表現・工夫	○さまざまなことに興味をもち、自分でできることは自分でしようとする。 ○積極的に友だちと一緒に遊ぼうとする。 ○自分が好きな遊び以外のさまざまな遊びをしようとする。 ○身近なものや遊具に興味をもって積極的にかかわる。 ○身近な材料や素材、用具を使って、かいたり、つくったりして楽しむ。 ○音楽にあわせて、歌ったり、リズム楽器を鳴らしたり、体を動かしたりして楽しむ。	○一人ひとりの興味や関心をとらえ、じっくりと遊び込めるように場や時間を設定する。 ○一人ひとりの表現を認め、子どもが「できた」という喜びを共感し、満足感をもてるようにする。 ○保育者も一緒に遊びを楽しみながら、友だちの様子を見たり、誘いかけたりして仲立ちする。 ○イメージが広がるような素材を用意する。
家庭・地域との連携	○子どもが自分でしようとする気持ちを大切にしながら、優しく見守ることの大切さを保護者に伝える。 ○子どもの自己主張や自立心が強くなるが、甘えたい気持ちもあるので、子どもと一緒に過ごす時間を多くとるなど、それらの気持ちを温かく受けとめるよう保護者に伝える。 ○「なんで？」、「どうして？」の質問が盛んになる時期なので、子どもの言葉や気持ちに対して優しく応答し、子どもが「自分は大切にされている。」と感じられる親子のかかわり方を保護者に伝えていく。 ○地域行事への参加や施設見学などを通して、さまざまな人（ボランティア、卒園児、小・中学生、祖父母、地域の人など）とふれあう機会をもつ。	

エピソード

対象年齢　:3歳児

「自分の気持ちをコントロールする力を育む」

育まれる力:　大切にする力　つながる力　考えてチャレンジする力

次、頑張ろうね！

Aちゃんはクラスの友だちとイスとりゲームをしています。やる気満々で始めますが、自分の座る場所がなくなると、すねたり泣いたりしてゲームが中断してしまいました。保育者だけでなく、クラスの友だちと一緒に励ますと、やる気が戻り、友だちの応援を始めました。

こどもの姿

イスとりゲームのルールを説明し、イスを並べ始めると、Aちゃんのやる気がどんどん高まっていきます。キーボードの音で歩き始め、音が止まるとクラスの子どもたちは「キャーッ。」と歓声をあげて座っていました。時々座りたい一心で、音が止まっていないのに思わず座ってしまう子どもたちには「まだでーす。」と言い、笑いのある良い雰囲気でゲームが進んでいきます。

くり返すうち、イスに座れない子どもが少しずつ出てきました。Aちゃんは、そんな子どもたちを笑い、ふざけていました。調子が良かったAちゃんでしたが、イスの数が減ってきて座ることができませんでした。すると、Aちゃんはスネて泣きだしてしまいました。

保育者が「次、頑張ろうね。」と励ましても返事をしませんでしたが、それをきいたクラスの友だちも同じように「次、頑張ろうよ。」と口々に声かけをし始めると、Aちゃんは泣くのをやめてうなづきました。しばらくスネていたAちゃんは、イスに座れなかった子どもたちがゲームを続けている友だちに「がんばれー！！」と応援している姿を見て、気持ちも晴れて笑顔が戻り一緒に見ていました。

保育者の声

集団の中で自己主張をしながらも、友だちの言葉やその場の楽しそうな雰囲気で、自分の気持ちをコントロールする力が少しずつ育ち始めます。

保育者はそんな子どもたちに対して、励ましの言葉をかけ、現状への納得や次に挑戦する意欲を育んでいます。

ポイント

「次、頑張ろうよ。」などの友だちが投げかけた言葉を拾い、「〇〇ちゃん優しいね。」など取りあげ、その場の雰囲気を楽しく盛りあげることが大切です。

また、集団の中で力を借りて、子どもたちが互いにかかわりあうことにより解決していくことが大切です。

おすすめ絵本

「そらまめくんのベット」
なかやみわ　福音館書店

「せんろはつづく」
竹下文子　鈴木まもる　金の星社

「三びきのやぎのがらがらどん」
マーシャ・ブラウン　瀬田貞二　福音館書店

エピソード

対象年齢　:3歳児

育まれる力:　大切にする力　つながる力　考えてチャレンジする力

「自信をもたせることで、相手に優しく接する力を育む」

教えてあげてね！

Bちゃんはこま回しが得意で、クラスの友だちと楽しそうにこまを回して遊んでいます。その様子を見たクラスのCちゃんも“やってみたい”気持ちが強くなり、興味をもって挑戦し、Bちゃんに教えてもらいながらこまを回すことができました。

こどもの姿

Bちゃんは、お兄ちゃんやお姉ちゃんの影響もあり、こま回しへの興味・関心が高く、一人で投げて回して遊んでいます。クラスのCちゃんも、こま回しには興味があり、その様子を飽きることなく見ていました。

保育者が「Cちゃんも遊ぶ？」と誘うと、こま回しに喜んで挑戦し、手を添えて投げると、回ることもありました。保育者は一人で回せることができるBちゃんに対して、「Bちゃんはこま名人やもんね。」と声をかけると、とてもうれしそうな顔をしました。

そして、「こま名人さんは今度先生になって、こまの回し方を教えてあげてね。」と言うと、それまではどちらかと言うと一人遊びが多かったBちゃんが、積極的にCちゃんに近寄り、「あのな…こうするねん。」と、懸命に教えようとする姿が見られました。CちゃんもBちゃんの動作を一生懸命見て、飽きることなく練習し、あっという間に一人でこまを回せるようになりました。

保育者の声

友だちがすることに興味・関心をもっていることに気づき、できるような環境づくりをすることで、やってみようかなという気持ちになります。

自分ができることを褒められることで喜びや自信をもち、挑戦する友だちにも優しく接することにつながります。

ポイント

一人でできる子どもに対しては、認める、褒めるなどの言葉がけをし、自信をもたせることが大切です。

また、他の友だちに教えていくことが、新たなやりがいの発見やさまざまな人とかかわる力が育まれます。

おすすめ絵本

「ぐりとぐら」
中川李枝子　大村百合子　福音館書店

「おおきくなるっていうことは」
中川ひろたか　村上康成　童心社

「てぶくろ」
エウゲーニー・M・ラチョフ　内田莉莎子
福音館書店

⑥ 4歳児

子どもの姿

友だち大好き！

- 友だちとのつながりが強くなり、一緒に遊ぶことを楽しむ。
- 全身のバランスがとれ、戸外での遊びや運動を楽しむ。
- 園（所）内のきまりや友だちとの約束を守って遊ぼうとする。

ねらい

- 友だちと一緒に、さまざまな遊びを楽しむ。
- さまざまなものに興味・関心をもち、遊びに取り入れようとする。
- 戸外で全身を十分に動かして遊ぶ心地良さを味わう。
- 園（所）生活での約束やきまりを知り、健康に過ごすための基本的生活習慣を身につける。

発達過程

- 全身のバランスを取る能力が発達し、体の動きが巧みになる。
- 自然など身近な環境に積極的にかかわり、さまざまなものの特性を知り、それらとのかかわり方や遊び方を体得していく。
- 想像力が豊かになり、目的をもって行動し、かいたり、つくったり、試したりするようになるが、自分の行動やその結果を予測して不安になるなどの葛藤も経験する。
- 仲間とのつながりが強くなる中で、けんかも増えてくる。その一方で、きまりの大切さに気づき、守ろうとするようになる。
- 感情が豊かになり、身近な人の気持ちを察し、少しずつ自分の気持ちを抑えられたり、我慢ができるようになってくる。

保育者の声

「好きな遊びを遊び込んでほしいです。
我慢する力も身につけていきましょう。」

友だちをいっぱいつくって、おもいっきり体を動かして好きな遊びを楽しむことが大切です。好きな遊びを友だちと遊び込んでほしいです。人とのかかわりも多くなるため、自分の思いを伝えたり、集団生活のルールを知っていきましょう。

教育・保育内容

	内容	環境・援助
大切にする力 自尊心・自信・安心・興味・関心・気づき・親しみ・道徳性・思いやり・感謝	○友だちの気持ちに関心をもち、理解できるようになる。 ○保育者との信頼関係の中で、さまざまな活動に自分から参加しようとする。 ○身近な動植物とかかわり、大切にしようとする。 ○さまざまな遊具や用具に親しみ、使い方を知る。 ○友だちの気持ちを考え、思いやりの気持ちをもって生活する。 ○さまざまな人に関心をもってかかわる。	○自分でしようとする姿を見守り、できた時には褒めたり、一緒に喜んだりする。 ○自然に興味・関心をもてるようにし、成長や変化に気づけるようにする。 ○遊びの空間を確保しながら、一人ひとりが安定して遊べる場を多くつくり、遊びに取り組めるようにする。 ○遊具や用具の安全な使い方や約束などを、繰り返しわかりやすく伝える。
元気に生活する力 自立・自主性・生活習慣・生活リズム・規範意識・ルール・安全・発達・運動・遊び・食事・食育	○身の回りのことを自分でできるようになる。 ○遊びや生活の中で、伸び伸びと行動し、自分らしさを出す。 ○一日の生活の流れがわかって、生活しようとする。 ○生活や遊びのルールの大切さがわかり、守る。 ○交通ルールを知り、守る。 ○友だちや保育者と一緒に、全身を思いきり動かして遊ぶ。 ○食事のマナーを守りながら、友だちと一緒に楽しく食べる。 ○料理名や食材に興味をもつ。	○一日の流れを明確にし、子どもが見通しをもって行動できるように環境を整える。 ○集団生活のきまりを知らせ、みんなが心地良く生活できる場を整える。 ○積極的にみんなで遊ぶ機会をもち、体を動かす楽しさを知らせていく。 ○友だちの遊びの様子や、楽しんでいることなどを、周りの友だちと共有できるようにする。
つながる力 話す・伝えあう・言葉・きく・理解する・くみ取る・共感・折りあう・協同性	○友だちと遊ぶ中で、自分の考えを伝えたり、友だちの考えを受け入れたりする。 ○自分や相手が思ったことや感じたことを伝えあう楽しさや喜びを感じる。 ○遊びや絵本などを通して文字に興味をもち、言葉遊びを楽しむ。 ○場面にあったあいさつがわかり、自分から積極的にしようとする。 ○友だちや保育者の話を、親しみをもってきこうとする。 ○友だちとの遊びの中で、相手の話を理解したり、相手の気持ちに気づいたりする。 ○絵本や童話に親しみ、友だちや保育者と一緒に楽しむ。 ○気のあう友だちと一緒に遊ぶことに喜びや楽しさを感じ、積極的に参加する。 ○遊びや生活の中でのさまざまな葛藤を通し、気持ちに折りあいをつけることを知る。	○友だちの良さを気づかせ、一緒に生活する楽しさを味わえるようにする。 ○話したい、伝えたいと思う気持ちを大切に受けとめ共感し、子ども同士の関係を支えていく。 ○一人ひとりの思いが出せるようにし、喜びや自信をもって、友だちと楽しめるようにする。 ○トラブルが起きた時は、それぞれの思いを受けとめ、相手の気持ちにも気づき、折りあいをつけられるように仲立ちする。 ○さまざまな人とふれあう機会や場を大切にし、楽しんで参加できるようにする。
考えてチャレンジする力 挑戦・達成・ねばり強さ・意欲・好奇心・探究心・活用・感性・表現・工夫	○友だちとイメージを共有しながら遊びを楽しみ、できた時の充実感を味わう。 ○初めてのことにも興味をもって挑戦する。 ○友だちと一緒にさまざまな遊びや活動に意欲的に取り組む。 ○遊びに必要なものを自分で考えて探し集め、活用して遊ぶ。 ○遊びや生活の中で、数や量、図形、文字、ものの性質に興味・関心をもつ。 ○身近な材料や素材、用具を使って、自分のイメージにあわせて試したり、工夫したりして表現する。 ○音楽やリズムにあわせて体を動かし、自分なりの表現をすることを楽しむ。	○一人ひとりの遊びを見守り、必要に応じてアイデアやヒントを出し、遊びを援助したり、発展させたりする。 ○友だちと一緒にじっくりと遊び込めるような場や環境を工夫する。 ○さまざまな遊びに興味が広がるように環境を工夫し、満足感を味わえるようにする。 ○遊びの中に、数や量、図形、文字、ものの性質などにふれられるような環境をつくる。 ○さまざまな素材や用具を使いやすいように整理し、イメージにそって遊びに取り入れられるようにする。
家庭・地域との連携	○教育相談日などを設け、保護者の育児の不安を共有し、助言する。 ○連絡帳や登降園（所）時の保護者との会話の中で、一人ひとりの子どもの生活や友だちとのかかわりの様子を伝え、ともに成長を喜びあい、保護者との信頼関係をつくる。 ○子どもが葛藤を経験し、さまざまなことに試行錯誤しながら取り組んでいる様子を優しく見守り、励ますことの大切さを保護者に伝える。 ○地域行事への参加や施設見学などを通して、さまざまな人（ボランティア、卒園児、小・中学生、祖父母、地域の人など）と交流する機会をもつ。	

エピソード

対象年齢　:4歳児

育まれる力:　大切にする力　つながる力

「相手を思いやる気持ちを育む」

3人で遊んだらええやん！

AちゃんとBちゃんは仲が良く、いつも一緒に遊んでいます。そんなある日、BちゃんはCちゃんと一緒に遊んでおり、その様子を見たAちゃんが悲しんでいると、Dちゃんが仲立ちに入り、3人で仲良く遊ぶようになりました。

こどもの姿

BちゃんとCちゃんは2人が大好きなボール投げを一緒にしていました。そこへBちゃんと一緒に遊びたいAちゃんが来て「いれて！」と言いました。Bちゃんは「今、Cちゃんと遊んでるからダメ。」と断り、BちゃんはCちゃんの手を取り、砂場へ行ってしまいました。

AちゃんはBちゃんの行動にショックを受け、今にも泣きそうな顔をしています。その様子を見ていたDちゃんが「3人で遊んだらええやん！」とAちゃんに声をかけました。

Aちゃんが自分では言えない様子だったので、DちゃんがBちゃんとCちゃんのところへ一緒に行き、「3人で遊んだらええやん！」と言いました。それをきいたBちゃんは「いいよ！Aちゃんも一緒に遊ぼう」と声をかけ、Cちゃんも「3人で遊ぼう。」と言い、3人で仲良く手をつないで遊び始めました。

保育者の声

遊ぶことを断わられたAちゃんの悲しい気持ちをDちゃんがくみ取り、代わりに伝えてあげ、子ども同士で解決できたことが良かった点です。

友だちの思いに気づき、Dちゃんの言った言葉にうれしさを感じ、友だちとのつながりが広がっていったと思います。

ポイント

Dちゃんが人を思いやる気持ちをもち、AちゃんとBちゃんの仲立ちができたことは素晴らしいことです。保育者としては、子ども同士で解決できることを温かく見守り、必要に応じてアドバイスや仲立ちをすることが大切です。

Dちゃんのアドバイスを素直に受け入れたBちゃんとCちゃんにも共感する力や折りあいをつける力が育まれ始めています。

おすすめ絵本

「はじめてのおつかい」
筒井頼子　林明子　福音館書店

「ぐるんぱのようちえん」
西内ミナミ　堀内誠一　福音館書店

「ないた」
中川ひろたか
長新太　金の星社

「ジローとぼく」
大島妙子　偕成社

エピソード

対象年齢　:4歳児

育まれる力:　大切にする力　つながる力　考えてチャレンジする力

「子どもが友だちからの励ましや
認められることにより自信や意欲を育む」

頑張ったなぁ

集団の中ではおとなしく恥ずかしがり屋で、なかなか自分を出せないでいるEちゃん。そんなある日、クラスのみんなの前で話す機会があり、自分から話し出せたことがきっかけで自信がつき、さまざまなことに意欲的に取り組めるようになりました。

こどもの姿

毎日順番にまわってくる当番。Eちゃんも朝の会ではいつも保育者に助けを求めるように表情で訴え、言葉をかけられながら話すことが続いていました。そんなある日、Eちゃんは、いつもとは違い自分から小さな声で話し始めました。

それを見たクラスの友だちから「Eちゃん、言えたなぁ。」「頑張ったなぁ。」との声があがりました。それをきいたEちゃんもうれしそうに笑顔になりました。

それがきっかけでEちゃんは、徐々に声が大きくなり、ハキハキと言えるようになりました。そしてその他のさまざまなことに自信をもてるようになり、大なわや鉄棒などこれまで苦手だった遊びにも意欲的に取り組めるようになっていきました。

保育者の声

さまざまなことに自信がもてないでいる様子のEちゃんでしたが、友だちから励ましを受けたり、認めてもらったりしたことが、本当にうれしく、集団生活に馴染むきっかけにつながっています。

自分の力への気づきや、自信をもつことにつながりました。

ポイント

集団生活に馴染めない子どもに対して、保育者が必要に応じて援助してあげることは大切です。しかし、最後は自分からしてみようとする気持ちや姿勢、やり遂げることが重要になってきます。

また、1つでも自分でできたことをきっかけとして、次の行動に発展していくことを信じて、見守っていくことが重要です。

おすすめ絵本

「しゅくだい」
いもとようこ　岩崎書店

「ぶたのたね」
佐々木マキ　絵本館

「じごくのそうべえ」
田島征彦　童心社

「10 ぴきのかえる」
間所ひさこ　仲川道子 PHP 研究所

⑦ 5歳児

子どもの姿

みんなで頑張ろう！

- 友だちと一緒に、目的をもって工夫（協力・役割分担）してやり遂げようとする。
- 自分の力を発揮しながら、主体的に遊びや生活を楽しむ。
- 友だちとのつながりを深め、互いの気持ちを理解しながら遊びや生活を進める。

ねらい

- 信頼関係が深まり、集団としての機能を高める。
- 自分の思いや考えを伝えあうとともに、互いの良さに気づき、認めあう。
- 身近なさまざまな事象に意欲的にかかわる。
- めあてをもって継続して取り組み、達成感や充実感を味わう。
- 健康や安全など生活に必要な習慣や態度を身につけ、見通しをもって生活する。

発達過程

- 基本的な生活習慣が身につき、運動機能はますます伸び、喜んで運動遊びをしたり、仲間とともに活発に遊ぶ。
- 言葉によって共通のイメージをもって遊んだり、目的に向かって集団で行動することが増える。さらに、遊びを発展させ、楽しむために、自分たちできまりをつくったりする。
- 自分なりに考えて判断したり、批判する力が生まれ、けんかを自分たちで解決しようとするなど、お互いに相手を許したり、異なる思いや考えを認めたりといった社会生活に必要な基本的な力を身につけていく。
- 他人の役に立つことをうれしく感じたりして、仲間の中の一人としての自覚が生まれる。

保育者の声

「自分の力を思いっきり発揮してほしいです。目的をもって集団行動するようになります。」

人とのかかわりの中でも、自分や相手の思いや考えを伝えあうコミュニケーション能力が重要になります。小学校入学前でもあり、「遊び」から「学び」への視点も大事になってきます。集団生活の中でも、信頼関係のもとに協同して物事を進める力も必要になります。

教育・保育内容

	内容	環境・援助
大切にする力 自尊心・自信・安心・興味・関心・気づき・親しみ・道徳性・思いやり・感謝	○友だちの気持ちを理解しながら、自分の気持ちを言葉で伝えようとする。 ○自信をもって自分の力で行動しようとする。 ○身近な動植物に親しみをもって接し、生命の大切さに気づく。 ○共同の遊具や用具に愛着をもち、大切にする。 ○友だちを思いやり、互いに認めあいながら生活する。 ○家族の愛情に気づき、家族を大切にしようとする。 ○さまざまな人とのかかわりに興味・関心をもち、親しみを感じたり、感謝の気持ちを表現したりする。	○友だちの良さや頑張りを認めあえるような場や機会を多くもつ。 ○目標をもって頑張っている姿を励ましたり、認めたりして自信につながるようにする。 ○トラブルが生じた時は、保育者も子どもと一緒に考えあい、互いが納得できるようにしていく。 ○子どもと一緒に、動植物を見たり、世話したりしながら、愛情をもってかかわれるように見守り、生命の大切さに気づけるようにする。 ○就学に向けての期待や不安な気持ちを十分受けとめ、一人ひとりが自信をもって、入学を楽しみにできるようにする。
元気に生活する力 自立・自主性・生活習慣・生活リズム・規範意識・ルール・安全・発達・運動・遊び・食事・食育	○遊びや生活の中で、自分らしさを発揮しながら自発的に物事に取り組む。 ○一日の流れに応じて、自分で見通しを立てながら遊んだり、生活したりする。 ○生活に必要な習慣の大切さがわかり、健康的な生活を進んでしようとする。 ○友だちと一緒にルールをつくって遊びを楽しむ。 ○危険な時の行動の仕方がわかり、安全に気をつけて行動する。 ○戸外で体を動かす心地良さや気持ち良さを感じる。 ○自分の力を発揮したり、競いあったりして、全身を動かして遊ぶ満足感を味わう。 ○食材を育てている人や調理している人に感謝の気持ちをもち、友だちと一緒に楽しんで食事をする。 ○さまざまな食材の種類や体への働きに関心をもつ。	○基本的生活習慣が定着するように、一日の見通しをもたせ、時計を意識して行動できるようにする。 ○自分たちの生活に必要な行動やきまりがあることに気づかせ、自ら行動しようとする態度を大切にする。 ○危険なことを知らせ、安全・安心な行動が身につくようにする。 ○友だちと一緒に、体を十分に動かして遊ぶ機会を多く取り入れる。 ○自分なりの目標に向かって、精一杯力を出して取り組んでいる姿を受けとめ、励ましたり、共感したりしながら、自信をもてるようにする。 ○食品の種類や体への働きを伝え、食事の大切さを理解できるようにする。
つながる力 話す・伝えあう・言葉・きく・理解する・くみ取る・共感・折りあう・協同性	○グループや友だち同士で話しあいながら遊びや活動を進める。 ○自分が思ったこと、感じたこと、経験したことを言葉で表現し、相手に伝えられた喜びや楽しさを感じる。 ○遊びや生活の中で文字を使って伝える楽しさを味わう。 ○友だちやさまざまな人とのかかわりの中で、自分から親しみをもってあいさつしたり、感謝の気持ちを表現したりする。 ○友だちの良さを受けとめ、友だちとかかわって遊ぶ楽しさを味わう。 ○自分の思いを伝えるだけでなく、相手の話をよくきき、互いに認めあい、心が通じあう喜びを実感する。 ○絵本や童話に親しみ、お話づくりなどを通して、友だちと一緒にイメージを広げながら楽しむ。 ○友だちと一緒に、共通の目標に向かって、工夫したり、協力したりして、実現する喜びを味わう。 ○同年齢や異年齢の友だちと協同的な遊びを行うことで、協調性や折りあいの気持ちをもつ。	○友だちと協力して遊ぶ楽しさを味わえるように言葉かけを工夫する。 ○グループ活動の機会をもち、自分の思いを伝えたり、友だちの思いをきいたりしながら、思いを一つにして活動する経験をする。 ○トラブルが起きた時には、互いの思いを伝えあったり、折りあいをつけたりして解決できるように見守る。 ○異年齢児と交流し、自分より幼い子どもに優しく接し、年長者としての経験や力を発揮できるようにする。 ○さまざまな人と交流し、優しさにふれる体験を取り入れる。
考えてチャレンジする力 挑戦・達成・ねばり強さ・意欲・好奇心・探究心・活用・感性・表現・工夫	○自分なりのめあてをもって活動に取り組み、最後までやり遂げた達成感を味わう。 ○苦手なことにも繰り返し挑戦し、ねばり強く取り組もうとする。 ○友だちと一緒に考えたり、試したり工夫したりして、遊びを発展させて楽しむ。 ○新しいことやわからないことを知った時の喜びや楽しさを感じる。 ○遊びや生活の中で、数や量、図形、文字、ものの性質への興味・関心が高まり、遊びの中に取り入れようとする。 ○適切な素材や材料を使って、遊びに必要なものを友だちと一緒に工夫してつくったり、遊んだりして楽しむ。 ○友だちと一緒に音楽やリズムにあわせて踊ったり、共通の表現をしたりすることを楽しむ。	○一人ひとりの良さや頑張りを認めあえるような場や機会を多くもつ。 ○目標や困難なことに向かってチャレンジしている姿を認め励まし、達成した時ややり通した時には、子どもと一緒に喜び、意欲や達成感を育てる。 ○目的をもって遊びを探究していく過程を大切にする。 ○友だちとルールを確認したり、教えあったりしながら、遊びを発展させる。 ○友だちと一緒にいろいろ試しながら、数や量、図形、文字、ものの性質などを活かした遊びができるようにする。 ○さまざまな素材や材料を用意し、友だちと一緒に協力しながら工夫して遊べる環境を整える。
家庭・地域との連携	○教育相談日などを設け、保護者の育児・教育不安を受けとめ、小学校入学への期待につなげられるようにする。 ○保護者に保育のねらいや意図を伝え、理解を深められるよう啓発に努める。 ○自分なりの目的や自分の力を発揮して取り組む姿を応援し、達成した時ややり通した時に、一緒に喜びを共感する。 ○生活習慣の見直し、文字や数への興味・関心を高めるなど、小学校への円滑な接続にともに取り組む。 ○就学に向け、小学校や関係機関などと連携をとる。	

エピソード

対象年齢　:5歳児

育まれる力:　元気に生活する力　つながる力　考えてチャレンジする力

「協同して遊び、工夫し発展させる力を育む」

みんなで遊べば楽しいね

牛乳パックや空箱などを使って的をつくり、新聞紙でつくったボールを蹴って的を倒す遊びに夢中で、他の子どもたちに遊びの順番を代ろうとしないAちゃんとBちゃん。その様子を見たCちゃんやDちゃんが注意したことがきっかけになり、みんなで遊びを工夫して盛りあげていきました。

こどもの姿

AちゃんとBちゃんは、新聞紙でつくったボールを蹴って、的にぶつけるゲームをしていますが、ゲームに夢中になり、遊ぶ順番を守らずにいます。その様子を見たCちゃんは「私もさせて！」と言いましたが、きこえないふりをしています。

そこへDちゃんが「みんなでつくったゲームやねんから、大事に遊ばな！」「ほら、的が壊れてるで。」「1回蹴ったら交替してや！」などとAちゃんとBちゃんに言いました。するとAちゃんは「わかった。」「ちょっと待って！修理するわ。」と言い、Bちゃんと一緒に的の修理をし始めました。

Aちゃんは「できたで！」「やりたい人はここに並んでや。」「このしるしのところから蹴ってや！」と言い、それにつられてBちゃんは「3個全部倒したら満点やから、何か景品あげようか？」と提案しました。するとCちゃんとDちゃんが「私ら、折り紙で景品つくるわ！」と言うと、AちゃんとBちゃんも「よろしく！」と言い、さらに遊びが盛りあがっていきました。

保育者は、このやりとりがあり、遊びの発展があったことを、クラスの中での話しあいでも取りあげ、他の子どもたちにも伝えました。

保育者の声

AちゃんとBちゃんがDちゃんの言葉で、ふざけていたことを反省し、修理をし、さらにアイデアを活かして、遊びを発展させたことは、5歳児にふさわしい集団遊びの姿です。

注意できたDちゃんやそれを素直に受け入れることができたAちゃんとBちゃんは、互いに思いを伝えあったことで、心が通じあう気持ち良さを実感することができました。そのことが、協同して、より楽しい遊びに発展させることにつながっていきました。

ポイント

「遊びのためにつくったものを大切に扱うこと」「ルールをきめて守って遊ぶこと」「友だちと力をあわせて遊び道具をつくったり、それを使って遊んだりする楽しさを味わうこと」を再確認することで、より楽しい遊びへと発展できたように思います。

おすすめ絵本

「かいじゅうたちのいるところ」
モーリス・センダック
じんぐうてるお　冨山房

「にゃーご」
宮西達也　鈴木出版

「めっきらもっきら　どおん　どん」
長谷川摂子　ふりやなな　福音館書店

「こんとあき」
林明子　福音館書店

エピソード

対象年齢　:5歳児

「友だちの思いを大切にすることで、クラスがつながる」

育まれる力:　大切にする力　つながる力

私たちが頑張るから！

交流会で年長同士のリレー対決をすることになりました。ところが、走る予定だったEちゃんの体調が悪くなり走れなくなってしまいました。そんなEちゃんの姿を見たFちゃんは「私たちが頑張るから！」とクラスで団結し、リレー対決をすることになりました。

こどもの姿

運動会を終えた数日後。近隣園との交流会の日。子どもたちもリレー対決に向けて「頑張るぞー」の気持ちをもって出発しました。ところがEちゃんが「気持ちが悪い」と体調不良を訴えてきました。保育者が「先に園に帰って休んでおこう。」と言ってもEちゃんは「走りたい！・・・けど気持ちが悪くて走れない。でもみんなの応援がしたい。」と涙ながらに訴えてきました。

その様子を見たFちゃんが「Eちゃんの分も頑張るから！見ててや。」とEちゃんに伝えました。保育者はクラス全員を集め、Eちゃんが体調不良で走れないこと、そしてEちゃんのみんなと一緒に走りたいという思いを伝えました。みんなの前でFちゃんが「私Eちゃんの分も走る！頑張るわ！」と言いました。すると、周りの子どもたちも口々に「みんなで頑張ろうや！最後まで諦めんとこうな。」「靴が脱げてもずっと走ろう！」「バトン落としたらあかんで！」と気持ちを一つにし「エイエイオー！」とリレー対決に臨みました。

リレー本番では、走っている子どもも応援している子どもも、Eちゃんの気持ちを受けとめ、それに応えようとしていました。クラスが一つになった瞬間です。結果は接戦の末、残念ながら負けてしまいました。悔しくて泣いているFちゃん。そんなFちゃんやクラスの友だちに「私の分も頑張ってくれてありがとう」と伝えているEちゃんの姿がありました。

保育者の声

子どもたちは運動会という大きな行事を経験し、友だちと一緒に力をあわせた喜びが自信や意欲につながり、交流会のリレーもみんなで勝ちたい！という気持ちが高まります。Eちゃんの気持ちをFちゃんはすぐに受けとめるとともに、クラスの子どもたちが全員でそれに応えようとします。個々のかかわりだけではなく、周りの友だちに一人の気持ちを伝えることの大切さが、子どもたちの姿を通して実感できた出来事です。

ポイント

自分の力を発揮して、何かに取り組もうとする姿や機会は重要なことです。子どもたちの気持ちをくみ取り、同じ目的に向かって頑張る雰囲気づくりが大切になります。

保育者は、子どもの気持ちを代弁し、友だちとのつながりを高めていくことが重要です。

おすすめ絵本

「おおきなおおきなおいも」
市村久子　赤羽末吉
福音館書店

「すてきな三にんぐみ」
トミー・アンゲラー
今江祥智　偕成社

「にじいろのさかな」
マーカス・フィスター
谷川俊太郎　講談社

「おまえうまそうだな」
宮西達也　ポプラ社

4. 配慮や支援が必要な子どもの教育・保育

教育・保育現場においては、「会話が成り立たない」「トラブルが多い」「パニックを起こすことが多い」などの子どもに対して、**一人ひとりにあった配慮や支援をする**ことが必要です。

ここでは、それら配慮や支援が必要な子どもに対する教育・保育現場における対応例や関係機関などを紹介します。

行動面で気になる子ども

- 一つのことに集中し過ぎて、次のことに移れない
- 興味が持続せず、次から次へ移ってしまう
- 落ち着きがなく、パニックになることが多い
- 偏食や適量以上に食べてしまう

日常動作で気になる子ども

- 動きがぎこちなく、簡単な体操やリズム運動の模倣ができない
- 片づけができなかったり、簡単な工作（切ったり・貼ったり）が著しく困難である
- 同年代の子どもに比べて、著しく日常動作（走ったり・跳んだり）が遅い

対人関係で気になる子ども

- 乱暴、友だちとのけんかなどのトラブルが多い
- 遊びのルールを理解しつつも、守りながら行動できない
- 集団生活・遊びに著しく馴染むことができない

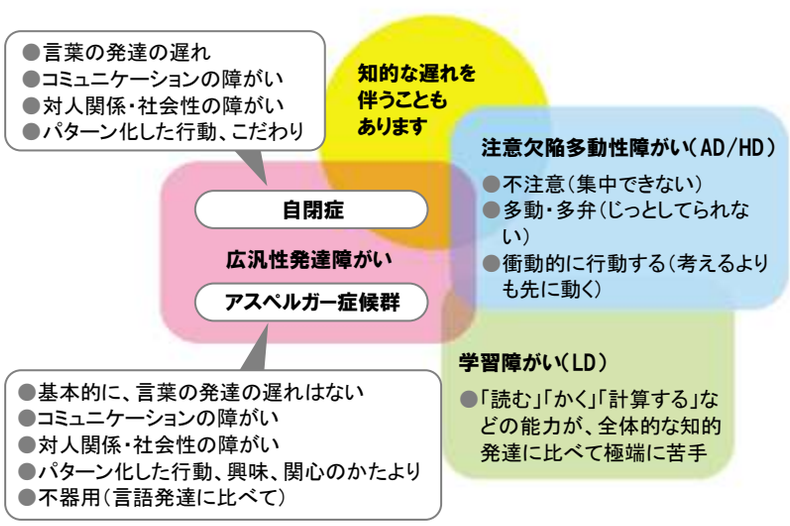
言葉が気になる子ども

- 発音が不明瞭、構音要領が未習得である
  例：うさぎ⇒うたぎ、トウモロコシ⇒トーモドコチ
- きいた通り言い返したり（エコラリア）、大人の言う簡単なことが理解できない

主な発達障がいについて

発達障害者支援法において、発達障がいは自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障がい、学習障がい、注意欠陥多動性障がい、その他これに類する脳機能障がいであってその症状が通常低年齢において発現するものと定義されています。

障がいの種類を明確にわけることは難しく、それぞれが重なりあう場合が多いとされています。



参考：内閣府大臣官房政府広報室HP

幼稚園・保育所での対応例

子ども一人ひとりにあわせた対応が重要です。また、保育者同士が子どもの育ちを共有するためのしくみづくりが重要です。

- 指導計画や本手引きを参考に、課題がある領域がどの年齢区分かを明らかにする。
- 個別の指導計画を作成する。
- 各幼稚園・保育所において、気になる行動や様子をチェックリストなどで把握し、保育者間で共通理解する。
- 気になる行動や様子に対する意見交換を行い、保育者間で共有する。
- 幼稚園・保育所で対応しつつも、教育・保育を進めるうえでは、関係機関との連携を密にする。

気になる行動・反応　チェックリスト（例）

人とのかかわり方
- ☐ 一人遊びが多い。一方的でやりとりがしにくい
- ☐ おとなしすぎる。常に受動的
- ☐ 大人や年上の子ども、あるいは年下の子どもとは遊べるが、同級生とは遊べない

イマジネーション・創造性
- ☐ 相手にとって失礼なことや相手が傷つくことを言ってしまう
- ☐ 友だちがふざけてやっていることをとらえ違えて、いじめられたと思ってしまう
- ☐ 集団で何かしている時にボーッとしていたり、ふらふらと歩いていたりする
- ☐ 急な予定変更時に不安や混乱した様子がみられる

感性
- ☐ ざわざわした音に敏感で耳をふさぐ。雷や大きな音が苦手
- ☐ 靴下をいつも脱いでしまう。同じ洋服でないとダメ。手をつなぎたがらない
- ☐ 極端な偏食
- ☐ 揺れているところを極端に怖がる。すき間など狭い空間を好む

学習
- ☐ 話が流暢で頭の回転が速いことに比べて、作業が極端に遅い
- ☐ 難しい漢字を読むことができる一方で、簡単なひらがながかけない
- ☐ 図鑑や本を好んで読むが、作文をかくことは苦手

コミュニケーション
- ☐ 話は上手で難しいことを知っているが、一方的に話すことが多い
- ☐ おしゃべりだが、保育者の指示が伝わりにくい
- ☐ 話をきかなければならない場面で席を離れることが多い、きいていない

注意・集中
- ☐ 一つのことに没頭すると話しかけてもきいていない
- ☐ 落ち着きがない。集中力がない。いつもぼんやりとしている
- ☐ 忘れ物が多い。毎日のことなのに支度や片づけができない

運動
- ☐ 体がクニャクニャとしていることが多い。床に寝転がることが多い
- ☐ 極端に不器用、絵やひらがなをかく時に筆圧が弱い、食べこぼしが多い
- ☐ 運動の調整が苦手で乱暴に思われてしまう、大きすぎる声

情緒・感情
- ☐ 極端な怖がり
- ☐ ささいなことでも注意されるとかっとなりやすい。思い通りにならないとパニックになる
- ☐ 一度感情が高まると、なかなか興奮がおさまらない

参考：内閣府大臣官房政府広報室HP

参考書籍

●「気になる」子どもの保育と保護者支援　本郷一夫編著（2010）　建帛社
→「朝の集まり」「ルール遊び」といった集団づくりにかかわる保育実践と、保護者支援の基本的な枠組みと実践の方向についてまとめている。巻末には気になる子どものチェックリストが掲載されている。

●幼児期の発達障害に気づいて・育てる完全ガイド　黒澤礼子著（2008）　講談社
→ 幼稚園・保育園ですぐに役立つ対応策が満載。保育者・保護者がすぐに使える記入式シートが掲載されている。

こんな出来事がありました

音に敏感に反応するAちゃん（4歳）。CDで音楽がかかり自分が不快に感じると「とめてー!!」と泣いてしまいます。始めはそのようなAちゃんの様子に、クラスの子どもたちは驚きを感じていました。

保育者は、Aちゃんの気持ちを落ち着かせるため、静かな場所を用意するなどの**Aちゃんの特性にあった配慮**を行いました。

そのような保育者の配慮やAちゃんの様子を見てきたクラスの子どもたちは、日が経つにつれて、Aちゃんの**特性を理解**してきました。

そんなある日、運動会の練習のためにどんな音楽がいいのかと、クラスでさまざまな音楽をかけました。ある曲にきた時、Aちゃんが「とめてー!!」と泣き始めました。

それを見ていた周りの子どもたちは、保育者が言ってくるより先にCDをとめ、Aちゃんを**なぐさめ、落ち着かせようとしている姿**が見られました。

気づいたこと

気になる行動を子どもたちなりに理解し、生活をともにする様子が見られました。

気になる行動を理解することに時間がかかる時もありますが、子どもたちの自発的な行動を見守り、子どもたちの協同性を育むことが大切です。

ポイント

保育者は子どもたちの自発的な行動を見守ることも大切ですが、時に子ども同士のトラブルに発展することもあります。

そのため、必要に応じて気になる行動を周りの子どもたちが理解できるように伝えることが必要です。

八尾市内の関係機関や取組み

子どもの総合相談窓口

子育て総合支援ネットワークセンター「みらい」

TEL:072-924-9892
FAX:072-924-8685

子育てや子どもの発達についての相談、ひとり親家庭の相談を行います。

【サポート内容】

- ●子育て支援サービスの申し込み受付
- ●子育てサークルへの支援
- ●子育て講座の開催
- ●子育てに関する情報提供
- ●相談
  - 子育て電話相談：子育て全般の相談
  - 児童家庭相談：0～18歳未満の子どもとその家庭に関する相談
  - ひとり親家庭などの相談：生活の安定や自立のための相談

八尾市立教育サポートセンター

TEL:072-924-3892
FAX:072-924-3414

教育上のさまざまな課題や保護者の悩みなどについて、来所による相談及び電話相談を行います。

【サポート内容】

- ●特別な教育的支援が必要な子どもの教育相談：
  入園時や就学時の悩みや不安についての就園就学相談、医療相談などの紹介、家庭での養育などについての相談
- ●一般教育相談：不登校・いじめ、学習面についてなど、子どもの学校園生活全般にわたる相談
- ●子育て相談：生活や学習について、子どもの心理や発達についての相談

八尾市保健センター

TEL:072-993-8600
FAX:072-996-1598

訪問指導

妊娠・出産への不安や、育児に関する悩みごとや心配事などに対して助産師または保健師などが家庭訪問し、相談支援や八尾市の子育て事業の情報提供を行います。

【サポート内容】

●妊産婦・新生児・乳幼児訪問指導
●こんにちは赤ちゃん訪問

乳児相談支援

育児・栄養・遊びの相談や来所者同士の交流会を行います。

子育て教室

離乳食の進め方・つくり方についてのお話と実演や試食を行い、楽しく学びます。また、幼児の食事に関する悩みをもつ子どもと保護者が集まって、楽しく食事を学ぶ教室を開催します。

【サポート内容】

●離乳食講習会
●スプーン教室

健康診査

保健センターや大阪府内の委託医療機関にて、妊婦や子どもの健康診査を実施します。

【サポート内容】

●妊婦健康診査（大阪府外受診分は償還払い制度あり）
●4か月児健康診査・BCG予防接種
●乳児後期健康診査
●1歳6か月児健康診査
●3歳6か月児健康診査

幼稚園における支援

個別の指導計画及び支援計画を作成し、子ども一人ひとりの育ちを大切にした日々の活動を通して、全体的な発達を促すとともに、障がいの程度にかかわらず配慮・支援の必要な子どもについて家庭と連携するための教育相談や個々の幼児の障がいの状態などに応じた支援の充実に努めています。

障がいのある子どもの理解を深めるとともに発達を促すために必要な支援や教材等を研究するため、専門家による巡回相談や研修等を実施しています。また、幼稚園と相談支援機関・医療機関や保護者と連携しながら教育内容の充実をはかっています。

保育所における支援

子どもが集団の中で他の子どもとの生活を通してともに成長できるよう、個別の援助を行うために保育士を配置します。また、子どもたち一人ひとりの発達を大切にすることを基本に、発達に応じた助言や保護者相談などの支援のため、専門講師による巡回指導などを行い、保育所と病院や相談支援機関及び保護者との連携を密にはかります。

保育を進めるにあたっては、個別の指導計画及び支援計画を作成し、集団生活の中で子どもの発達を支援しています。

通園施設等における療育

「八尾市立医療型児童発達支援センター　いちょう」や「八尾市立福祉型児童発達支援センター　八尾しょうとく園」などの通所施設において、機能訓練や遊びなどを通して、子どもの能力が最大限に活用されるよう、障がいのある子どもとその保護者へ支援を行っています。

子どもの虐待について

配慮や支援が必要な子どもの中には、虐待の疑いのある子どもも含まれます。

近年、保護者などによる「子どもへの虐待」の問題が深刻化していることから、虐待による子どもの被害をなくし、子どもの人権を守っていくために、**できるだけ早く虐待に気づき、対応につなげていく**ことが必要です。

ここでは、それら虐待の疑いのある子どもに気づくチェックリストや相談・通告窓口などを紹介します。

子どもの虐待の種類

身体的虐待

- 不自然な外傷（あざ、打撲、やけど）を負わせる
- 首をしめる、なぐる、ける、投げ落とす、激しく揺さぶる、熱湯をかける、戸外に閉め出す
- 意図的に子どもを病気にさせる　など

性的虐待

- 子どもへの性交、性的暴力、性行為の強要
- 性器を触ったり触らせたりする
- 性器や性交を見せる
- ポルノグラフィーの被写体などに子どもを強要する　など

ネグレクト

- 適切な食事を与えない、衣類を長期間ひどく不潔なままにする、極端に不衛生な環境の中で生活をさせる
- 乳幼児を家や自動車内に放置する
- 重大な病気になっても病院に連れて行かない
- 祖父母やきょうだい、保護者の交際相手などの同居人が、子どもに虐待をしていても放置する　など

心理的虐待

- 言葉による脅かし、脅迫
- 子どもを無視したり、拒否的な態度を示す
- 他のきょうだいと著しく差別的な扱いをする
- 子どもの前で 配偶者やその他の家族に対し暴力をふるう　など

虐待に気づくきっかけ　チェックリスト

子どもの様子

- ☐ いつも子どもの泣き叫ぶ声や保護者のどなっている声がきこえる
- ☐ 不自然な外傷（あざ、打撲、やけど）などが見られる
- ☐ 極端な栄養障がいや発育の遅れが見られる（低身長・低体重）
- ☐ 衣服や体が極端に不潔である
- ☐ 食事に異常な執着を示す
- ☐ ひどく落ち着きがなく乱暴、情緒不安定である
- ☐ 表情が乏しく活気がない（無表情）
- ☐ 態度がおどおどしており、親や大人の顔色をうかがったり、親を避けようとしたりする
- ☐ 誰かれなく大人に甘え、警戒心が薄い
- ☐ 夜遅くまで遊んだり、徘徊している
- ☐ 家に帰りたがらない

保護者の様子

- ☐ 地域や親族などと交流がなく、孤立している
- ☐ 小さい子どもを家に置いたまま、よく外出している
- ☐ 子どもの養育に関して拒否的、無関心である
- ☐ しつけが厳しすぎるように感じる
- ☐ 子どもに対して拒否的な発言をする
- ☐ 気分の変動が激しく、子どもや他人にかんしゃくを爆発させることが多い
- ☐ 子どもがケガをしたり、病気になっても医者に診せようとしない
- ☐ 子どものケガについて不自然な説明をする

参考：「あなたの気づきが子どもを守ります」
八尾市こども未来部　保育課

八尾市における児童虐待に関する相談・通告窓口

窓口	TEL・FAX 番号	開設日・時間
こども未来部保育課 子育て総合支援ネットワークセンター「みらい」	TEL：072-924-9862 FAX：072-924-8685	8：45～17：15 ※土・日・祝日・年末年始は休み
児童虐待 110 番 大阪府東大阪子ども家庭センター	TEL：06－6721－5336	9：00～17：45 ※土・日・祝日・年末年始は休み
大阪府子ども家庭センター 夜間・休日虐待通告専用電話	TEL：072－295－8737	17：45～翌朝 9：00 及び 土・日・祝日・年末年始
チャイルド・レスキュー110 番 大阪府警察本部	TEL：06－6943－7076	24 時間対応
児童相談所全国共通ダイヤル	TEL：0570－064－000	24 時間対応

第3章　家庭・地域との連携

近年、家庭の教育力の低下や、地域における人間関係の希薄化などによる地域の教育力や子育て支援機能の低下が指摘されています。子どもにとってより良い教育・保育環境を確保するためには、幼稚園・保育所、家庭、地域がそれぞれの教育・保育機能の充実をはかるとともに、相互の連携を強化し、**幼稚園・保育所、家庭、地域が一体**となって子どもの教育・保育に取り組む環境づくりを進めていくことが必要です。

家庭・地域との連携については、幼稚園教育要領と保育所保育指針においても、家庭や地域での**子どもの生活の連続性に配慮する**こと、**家庭や地域との連携や協力、地域の資源の積極的な活用**が記述されています。そのためには、幼稚園・保育所、家庭、地域が子どもの育ちを共有することが必要です。

ここでは、幼稚園・保育所が家庭・地域と連携する際の考え方や、それに基づいて幼稚園・保育所ができること、地域と協力してできることについて記載しています。

■連携する際の考え方

1　基本的生活習慣の定着
保育者と保護者が連携し、規則的な生活リズムや生活習慣を身につけ、自立した子どもを育みましょう。

2　親子・保護者同士がふれあう時間づくり
親子でふれあう時間を多くつくり、子どもの健やかな成長につなげましょう。保護者同士のふれあいにより、子育ての充実につなげましょう。

3　さまざまな人やものとふれあう機会の充実
子どもが保護者や地域のさまざまな人やものとふれあう中で、人やものを大切にする力や人とつながる力、豊かな心などを育みましょう。

①　保育者と保護者が日頃からコミュニケーションをはかり、子どもの育ちを共有することがポイントです。
幼稚園・保育所と保護者とのつながりづくり

②　親子が楽しく、保護者同士が気軽にふれあえる機会やしくみをつくることがポイントです。
親子・保護者同士のつながりづくり

③　地域資源を活かし、さまざまな人やものとふれあう機会やしくみをつくることがポイントです。
地域資源の積極的な活用、地域ぐるみの子育て支援

幼稚園・保育所ができること

（幼稚園・保育所）

幼稚園・保育所は、子ども同士がふれあう以外に、保護者同士が交流できる場でもあります。

ここでは、各幼稚園・保育所が保護者と連携するとともに、保護者同士のふれあい・つながりづくりに向けた取組みを記載しています。

1 幼稚園・保育所と保護者とのつながりづくり

保育者と保護者が日頃の子どもの様子を伝えあいましょう。子どもへの適切な教育・保育の提供や、子ども・保護者・保育者の相互の信頼関係づくりにつながります。

視点1　保護者とのコミュニケーション

保護者と子どもの成長や育ちを共有しましょう。子どもの生活の連続性に配慮することで、基本的生活習慣の定着につながります。

取組み例

- 連絡帳や手紙などを通して、幼稚園・保育所内と家庭での子どもの様子を共有する。
- 登園（所）時間を守ることの大切さを伝え、基本的生活リズムを身につける。
- 表示をつけるなど、片づける場所をわかるようにする。
- 定期的に発育測定などを行い、保護者と子どもの成長を共有する。

保護者の意見集め（感想用紙入れ）

園（所）内の連絡掲示

片づける場所の表示

視点２　幼稚園・保育所行事への参加協力

運動会などの行事へ保護者に協力してもらうよう呼びかけましょう。保護者が幼稚園・保育所などに足を運ぶことで、保育者と保護者のつながりを深める場となります。

取組み例

- 運動会などの大きな行事を保護者と一緒につくりあげる（開催準備支援、親子競技、親子で衣装づくりなど）。
- サマープレーデー（夏祭り）などにおいて、保護者が子どもたちに出しものを見せる。
- ごっこ遊び参観や劇遊び参観など、保護者が参加できる・しやすい参観を設定する。
- 交通安全指導などに保護者も一緒に参加してもらう。

運動会の準備

保護者とごっこ遊び

交通安全指導

視点３　保護者の保育などへの参加

幼稚園・保育所での保育や活動などに保護者が参加できるような機会をつくりましょう。保護者が保育や活動に参加することで、日頃の子どもの様子を知るとともに、かかわり方などの子育てのノウハウを学びあうことにつながります。

取組み例

- 春・秋の遠足、お別れ遠足の引率を協力してもらう。
- 一日保育者として、絵本の読みきかせや昼食の補助などを行ってもらう。
- 農園でふれあい体験への参加などを通して、戸外活動の保育に協力してもらう。
- 親子栽培活動、親子制作など、親子で体験できるさまざまな行事を企画する。

保護者による読みきかせ

保護者と農園活動

保護者と栽培活動

保護者と木工遊び

保護者による折り紙教室

② 親子・保護者同士のつながりづくり

幼稚園・保育所においても、親子がふれあえる時間や機会をもち、子どもの心の安らぎや親子の絆づくりにつなげましょう。また、保護者同士が日常会話などを通して、子育ての状況や楽しさを共有することにより、抱えている不安や悩みの解消につなげましょう。

視点1　幼稚園・保育所内でのふれあい交流

幼稚園・保育所内で親子が気軽に集まれる機会をつくりましょう。親子がふれあえる機会を設けることで、親子のつながり以外にも、保護者同士が子どもの様子などについて情報交換や日常会話を交わしたりすることができ、保育者と保護者、また、保護者同士のつながりづくりにもつながります。

取組み例

- 園（所）内でのさまざまな活動・行事において、親子で気軽に参加できるようなプログラムを設定する。
- お迎えの時間帯を使い、親子が一緒に遊べる会を企画・実施する。
- 親子作業（野菜植えなど）を企画・実施する。
- 美化活動、文化活動、親睦会などの活動・行事において、積極的に保護者の参加を促す。
- 保護者へ絵本を貸出する。

親子でマッサージ

みんなで遊ぼう

親子で寄せ植え

視点２　参観日などでの情報交換

幼稚園・保育所の参観日などを利用して、保護者同士が意見交換をできるような機会を設定しましょう。日頃の家庭での様子や友だち関係について情報交換を深めることにつながります。

取組み例

- 日曜日に参観日を設定し、多くの保護者の参加を促す。
- 保護者参加型の参観にすることで、保護者同士がさまざまな形でふれあえる機会とする。
- 参観日後の学級懇談会において、幼稚園・保育所での子どもの様子の意見交換を行う。
- 親子の写真の撮影など、保護者同士が認識しあえるきっかけをつくる。

親子リレー（日曜参加）

親子同士の触れあい遊び（日曜参加）

地域と協力してできること

（地域のさまざまな人・もの）

地域には、豊かな自然環境や多様な教育施設、またさまざまな経験や技能をもっている人たちが多く暮らしており、そのような場所や人材は子どもの教育・保育の充実にとって大切な資源です。ここでは、それら資源の活用に向けた取組みを記載しています。

3-1 地域資源の積極的な活用

地域には子どもの健やかな成長につながるさまざまな資源があることから、それら地域資源を活かし、子どもの教育・保育を充実させましょう。

視点1　地域のさまざまな人と交流する

地域の子どもからお年寄りまで、幅広い世代の方々と交流する機会を設けましょう。子どもがさまざまな人と交流することによって、豊かな心やつながる力を育みます。

取組み例

- 授業の一環で、中学生・高校生に来てもらい、子どもたちとのふれあい交流を行う。
- 地域の人たちを幼稚園・保育所で実施するさまざまな遊びの会へ招待する（一緒にふれあい遊びや、昔遊びを教えてもらったりする）。
- 地域のボランティアによる手話の指導や琴の演奏会などを実施する。
- 地域の福祉施設で高齢者と交流する。
- 小学校生徒や教師と交流する。
- 地域の人を招いて食育指導を行う。
- 中学生の職業体験で交流する。

高校生とのふれあい交流

中学生とのふれあい交流

高齢者とのふれあい交流

小学校の先生（英語指導助手）とのふれあい交流

視点２　地域資源にふれあう

地域の自然にふれたり、図書館などの教育施設などに行きましょう。幼稚園・保育所内での日常とは違った環境にふれることによって、豊かな心や新しいことを知ろうとする力の育成につながります。

取組み例

- 地域の施設見学（図書館、リサイクルセンター、大阪府民センター、青少年会館、消防本部、自動車教習所、清掃工場など）。
- スーパーで遠足のおやつの買い物体験を行う。
- 散策活動の一環として、地域の公園で落ち葉拾いを行う。
- 七夕に向けて、地域の公園などで笹取りを行う。

図書館の施設見学

自動車教習所の施設見学

公園での落ち葉拾い

七夕の笹取り

清掃車の勉強会

3-2 地域ぐるみの子育て支援

地域ぐるみで子どもを支え・見守ることによって、保護者の子育て不安の軽減や子どもの健全育成につなげましょう。

視点１　地域活動への参加

地域のボランティア活動（清掃活動、福祉活動など）に親子で参加するよう地域で働きかけましょう。地域とのつながりの中で子どもの思いやる力や社会性を育むことにつながります。また、保護者同士のネットワークも広まります。

取組み例

- 地域のふれあい農園へ親子で参加してもらう。
- 地域の行事やお祭りなどへ親子で参加してもらう。

ふれあい農園への参加

ふれあい農園との交流

地域行事への親子参加

地域行事への親子参加

視点２　見守り活動への参加

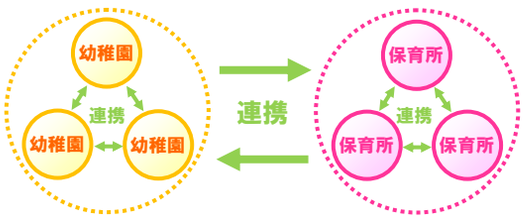
保育者・保護者・地域の大人が協力して、登降園（所）時などに防犯を兼ねた見守り活動に参加し、子どもたちに声かけを行いましょう。保護者も子ども自身も“地域によって支えられている”という意識づけが期待できます。

取組み例

- 大きな道路に立ち、子どもが安全に登降園（所）できるように見守る。
- 保育者や保護者が門前に立ち、あいさつする。
- 小学校と一緒に、見守り隊へ参加する。

第4章　幼稚園・保育所の連携（交流）

子どもの発達段階を踏まえ、より充実した教育・保育を実践していくためには、**幼稚園・保育所の保育者同士が互いの教育内容や指導内容について理解を深める**ことが求められます。また、子ども同士のかかわりは、子どもの豊かな心や健やかな体を育むことにつながることから、**子ども同士がふれあう機会を充実させる**ことが求められます。



子ども・保護者・保育者同士のさまざまなかかわりを通じて、教育・保育を充実

幼稚園・保育所の保育者同士の理解を深めたり、子ども同士が楽しくふれあったりするためには、幼稚園・保育所が連携し、それらの機会づくりを充実させていくことが必要です。

ここでは、幼稚園・保育所の連携に向けた取組みとして、互いの交流活動に視点をおき、交流する際に必要な視点や取組み事例を記載しています。

■交流活動の進め方

①計画
幼保が連携・交流の目的意識を共有し、協力体制を構築

- 幼稚園・保育所が互いの活動内容の確認や共有を行う。
- 目標を明確化する。
- 学びや成果を見取る観点から、かかわりの手立てを具体化する。
- 活動や環境構成を工夫する。
- 幼稚園・保育所が効果的な役割分担を行う。
- 意欲や意識づけや見通しをもたせる取組みを行う。

②実践
他の園（所）の子どもを意識し、協力した教育・保育を実践

- 交流活動を通して、保護者の子どもへの理解の場や、研修の場となるよう工夫する。
- 幼稚園・保育所の保育者同士が協力した教育・保育体制を工夫して実施する。
- 保育者の子どもへの意図的なかかわり方を工夫する。
- 子どもの発達段階を踏まえた指導を行う。
- 安全の確保に留意する。

③評価・反省
交流活動を合同で振り返る機会を設ける

- 交流活動での子どもの様子を振り返る。
- 交流活動での保育者の学びや気づきを振り返る。
- 目標の達成状況についての評価を行う。
- 次回の交流活動の見通しをもつ。

ポイント

交流活動の後には、
評価・反省をすることがとても大切です。
交流活動がさらに充実したものになります。

幼稚園・保育所の交流活動の実践事例

幼稚園・保育所の交流活動の実践事例を以下にまとめました。

幼稚園・保育所の交流活動を行う際には、目的意識の共有や協力体制を構築することが大切です。また、実施プログラムを検討する際にも、子どもの気持ちを考え、子どもが交流しやすい環境づくりなどの細やかな面にも配慮していくことが求められます。

ここで記載している事例を参考に、各幼稚園・保育所において創意工夫しながら実践していくことが望まれます。

幼稚園・保育所交流（園（所）内保育）

事例1

ドッジボール大会！！（1月）

近隣の幼稚園・保育所が合同で、年3回ある交流活動の一つである「ドッジボール大会」を開催する。

ねらい

- 他園（所）の子どもたちと交流することによって、さまざまな人とかかわる機会づくりや人とつながる力を育む。
- 対抗戦形式により、子どもたちが目標に向かって頑張る力や協同意識を育む。
- 保育者同士が交流し、他園（所）の教育・保育実践にふれる。また、他園（所）の子どもの様子を把握する。

子どもの姿

- 子どもたちが、自園・他園（所）の子どもたちとの交流を楽しみ、友だちの輪を深めたり、広げたりする。
- 子どもたちが、共通した目標に向かって協同しながら達成しようと頑張る。
- 子どもたちが、自分の力を発揮することで、自信や意欲をもつ。

ここがポイント！

- 子ども同士が応援したり、励ましあったりすることを大切にする。
- 子ども一人ひとりの頑張りだけでなく、同じチームで協同して目標を達成することの喜びや大切さを理解させる。
- 保育者は積極的に、自園（所）の子どもが他園（所）の子どもとかかわるよう促す。

準備

●実施日・予備日の設定
→各幼稚園・保育所の年間行事が重ならない日を調整。
→雨天の場合は翌日もしくは一週間以内に実施。
●実施場所の設定
→移動時間（距離）、広さ、安全面を考慮して設定。
●合同企画会の開催
→登園（所）条件の検討（集合時間、登園（所）時間、通園（所）路、移動手段など）。
→実施プログラムの検討（タイムスケジュール、役割分担、持ち物、安全確保の方法など）。

実施プログラム

9：40　実施園（所）に到着
→持ち物など：水筒・上着着用（寒い時）・トロフィー（前回優勝園（所））
→実施場所はローテーション形式で交代していく。※場所の広さに配慮する。

9：50　開会式
→園（所）庭に集まり、自己紹介や前回トロフィーなどの返還式を行う。

10：00　ドッジボール戦
→3つの幼稚園・保育所内で各2チームに編成し、計6チームを構成する。
→くじ引きにより対戦チームを決定し、各 10 分程度で実施する。

ポイント
共通のルールを設定する
・ジャンケンをしてボールを決定。
（各園（所）でボールの固さが異なるため）
・首から上はボールが当たってもセーフとする。
・始めに外野に出ていた子どもは無条件で内野に復帰できる。　など

10：40　優勝チーム表彰式
→優勝チームには子どもたちと一緒に健闘を称える。

10：40　リズム遊び（ふれあい遊び）
→実施園（所）で行っているリズム遊びを行う。

ポイント
ふれあい交流
最後にふれあい遊びを行い、負けて“悔しい”と思っている子どもも楽しく終われるようなプログラム設定を行う。

11：00　帰園準備
→実施園（所）の子どもたちの見送り。

反省会の意見

●一緒に遊ぶ時間が少なく、勝負をした“敵”で終わっている子どももいた。
●3回ですべての園（所）に行けてよかった。
●最後に大きなコートで全員が行っても良いと思う。
●真中のコートが狭く圧迫感があった。

来年度に向けて

●風邪が流行しやすいこの時期に行うことを再検討する必要がある。
●ドッジボールなどの運動遊び以外に、トロフィーをめざして遊べるプログラムもあって良いと思う。
●場所をローテーションするのではなく、プログラムによって実施園（所）をきめても良い。

幼稚園・保育所交流（園（所）外保育）

事例2

一緒に遊ぼう！！（11月）

秋の散策編

幼稚園・保育所が合同で近所の公共の場へ出向き、秋の散策を楽しみながらどんぐりや落ち葉を拾って遊ぶ。

ねらい

4歳児

- 幼稚園と保育所の友だちと一緒にふれあって遊ぶ楽しさを味わう。
- どんぐりや落ち葉などの自然物を拾ったり、遊んだりすることを楽しむ。

5歳児

- 幼稚園と保育所の友だちに親しみをもってかかわり、一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
- 木の実や落ち葉を拾ったりふれたりして、色や形、大きさ、においなどの違いや特徴に気づく。

共通

- 公共の場での過ごし方を知り、約束を守って遊ぶ。

実施プログラム

保育所

7：30 登所

→登所後は戸外で自由に遊ぶ。

9：30 出かける準備

→片づけをする。
トイレをすませる・手洗い・うがい・お茶を飲む。

10：00 合流

→目的地に着き、幼稚園・保育所の友だちとあいさつをする。

ふれあい交流

→事前に準備した曲にあわせて、歌を歌い、手遊びをする。

幼稚園

8：30 登園

→登園後は戸外で自由に遊ぶ。

9：20 出かける準備

→片づけをする。
トイレをすませる・手洗い・うがい・お茶を飲む。

ポイント

- 保育者は事前に木の実や木の葉の色づきを把握し、子どもが興味・関心をもてるようなかかわりや安全面について話しあっておく。
- 安全に遊べるように保育者の間で連携し、出入口や通路に注意する。

ポイント

- 保育者も仲間に入り、多くの友だちとふれあう楽しさを伝える。

10：20　散策活動

→保育者から散策にあたっての約束事（敷地内から飛び出さない。石の柵から外へ行かないなど）をきく。

→友だちと一緒にどんぐり拾いや木の葉集めをする。

ポイント

●保育者が互いの園（所）の子どもと積極的にかかわっていく。

●木の実や落ち葉を拾いながら発見したことや驚いたことに共感し、周りの子どもにも知らせて共有するようにする。

10：50　活動発表

→集まって先生の話をきき、発見したことを発表する。

→拾ったものを使って一緒に遊ぶ機会があることを知らせ、子どもの期待感を高める。

11：00　帰園

保育者の見取り・子どもの姿

4歳児

●保育者がお互いの園（所）の子どもに声をかけたりすることで、子ども同士がその場を一緒に過ごす喜びを感じたり、互いに意識したりする姿が少しずつ見られるようになった。

●始めは自分からふれあうことが少なかったが、最後のあいさつの場面では子ども同士がハイタッチしあう姿が見られ、楽しさを共有した思いが行動として表れていた。

●木の実の量が少なかったが、かえって木の実や落ち葉をじっくり探したり観察したりする姿が見られ、拾い集めた木の実や落ち葉の発見や驚きを伝えたい気持ちも高まった。

5歳児

●保育者同士が話しあい、互いの園（所）の子どもとも積極的にかかわったりすることで、子どももどちらの保育者にも話しかけたり、子ども同士でかかわったりする姿が見られた。

●幼稚園と保育所の子どもが一緒に手をつないで大きな円になった時には、「大きいなぁ。」と驚いた声があがり、多くの友だちと一緒にいるうれしさを感じていた。

評価・反省

4歳児

●自然の中で遊ぶ場合、五感を働かせてかかわり気づくような働きかけが大切である。

●次の活動の展開を想定して「これで何をつくりたい？」と問いかけたが、子ども自身がどうしたいのかをじっくり話をきいて進めていくべきだったと反省した。

●次に幼稚園と保育所で一緒に遊ぶ機会があることを知らせて、楽しみにできるように期待を高め、次の交流への意欲につなげたい。

5歳児

●保育者が遊びを見守りつつも、互いの園（所）の子どもに声をかけることができた。

●子どもが気に留めていないことにも気づいてもらえるような援助をしていきたい。

●今回の出会い方は、互いに姿が見えるとうれしそうにあいさつしており、親しみを感じていることがうかがわれた。今後は、遊びや環境を通して、かかわりがもう一歩深まるように援助していきたい。

工作活動編

幼稚園・保育所交流活動にて拾い集めた木の実などを使って、自分なりに工夫して遊ぶとともに、他の園（所）の子どもとの交流を楽しむ。

ねらい

4歳児

- 幼稚園と保育所の友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
- さまざまな素材を使って、自分なりに工夫しようとする。
- 身近な秋の自然物を使って、つくって遊ぶことを楽しむ。

5歳児

- 幼稚園と保育所の友だちに親しみをもってかかわって遊ぶ楽しさを味わう。
- 友だちのしていることに関心をもち、自分の考えを相手に伝え、相手の意見もきいたりしながら、一緒に遊びを進めていこうとする。
- 秋の自然物やさまざまな素材・用具を使って自分なりに工夫して遊ぶことを楽しむ。

実施プログラム

9：15 **実施園（所）に到着、あいさつ**

→お互いの園（所）の子ども同士があいさつをする。

9：30 **先生の話**

→自分たちで活動を進められるように、さまざまな自然物や素材があることを知らせる。

10：00 **工作活動・交流活動**

→秋の散策で拾い集めた木の実などを使って、好きなものをつくったり、つくったもので遊ぶ。

ポイント

- 保育者が仲間に加わるなどして、周りの子どもとかかわりながら活動に取り組めるようにする。
- 子どもが気づいたことや見つけたことが、周りの子どもに伝わっていくように援助する。
- 子どもが考えながら工夫する姿を受けとめるとともに、友だちと協力して遊びを進めている姿を認める。

○どんぐりころがし（板コース・筒コース）

・木工でコースをつくったり、筒などでコースをつくったりしながら遊べるように、興味をもてるような素材を用意する。
・危険を伴う道具を安全に使用できるように、使い方や約束を確認する。

○ゲーム（ボーリング・的あて）

・つくったものですぐに遊びが始められるように、広い空間を確保する。
・自分たちでルールを考えたり、協力して取り組んだりする姿を認める。

○アクセサリー・ドレス

○ケーキ・レストラン

・子どもがさまざまな素材でつくったものを使って遊びを展開できるように、それぞれの場所を確保し、つくったものの置き場や用具、絵本・資料などを用意する。
・友だちと一緒に協力しながら進める姿や、工夫して取り組む姿を認め、周りの子どもに知らせていく。

10：30 **片づけ**

10：50 **お別れのふれあい交流**

→みんなの顔が見えるように円になって座る。

ポイント

●一緒に遊んだ満足感を味わえるように、子どもが工夫したところや友だちと協力したところを認め、周りの子どもにも知らせて共有する。

11：00 **帰園**

→さようならのあいさつと握手をする。

→保育者は、子どもがまた一緒に遊ぶことを楽しみにできるように声をかける。

保育者の見取り・子どもの姿

●保育者がお互いの園（所）の子どもと積極的にかかわる中で、子ども同士のかかわりも増え、特定の友だちと一緒に遊ぶ姿も見られた。

●子ども同士で互いに名前を呼びあうなど、交流を積み重ねるなかで親しい関係が育まれた。

●さまざまな素材を使って友だちと工夫しながらつくる姿は見られたが、つくることに夢中になっていたため、それを使って友だちと一緒に遊びを展開するところまでは至らなかった。

評価・反省

●保育者も交流の積み重ねの中で、双方の“当たり前”のことについて話しあい、時には意見が食い違いながらも、保育内容や環境・援助について一緒に考えて準備できたことは大きな成果であり、さらなる課題でもある。

●子どもの主体性を大切にするために、子どもへ声をかけすぎないように意識することを共通理解した結果、子どもの思いや考え、試行錯誤する様子などを丁寧に見ることができた。一方で、見守りと援助との判断において幼保の保育者の考え方、感じ方の違いによる難しさも感じた。

●今回は最初からつくる活動が中心であったため、友だちと一緒に遊びを展開するところまでは至らなかった。「ケーキを売りたい。」という声が出だしたところで終わったため、それぞれの遊びがつながっていくことも難しかったようにうかがえる。

●今後は、各園（所）での普段の遊びをもち込んだり、今回の遊びをさらに発展させて遊ぶ機会を設けたりする必要がある。

第5章　手引きの活用

本手引きは、幼稚園・保育所が一緒になって話しあい、検討しあいながら作成しました。それらを踏まえて、本手引きの主な特長を以下の３つに集約しました。

手引きの特長

1 ４つの育みたい力とその教育・保育内容を示している。

P4・5
P16～43

※P16～43 は、年齢別の「子どもの姿」「ねらい」「教育・保育内容」のことをさしています。

2 ０～５歳児の発達と学びの連続性をもたせている。

P6～13

3 子どもの様子や幼保での取組み事例を多く紹介している。

P16～43
P49～64

※P16～43 は、年齢別の「エピソード」のことをさしています。

それら特長を活かして、以下のような活用方法が考えられます。

手引きの活用方法

読みあわせ、感想を話しあう。

保育者同士が集まり、手引きの読みあわせを行い、内容を理解する。また、感想や思いを話しあい、自分の幼稚園・保育所の状況と照らしあわせてみる。

例えば
事例①
P66

指導計画の参考にする。

例えば
事例①
P66

指導計画を作成する際に、手引きのめざす子どもの姿やねらいを参考にする。また、発達と学びの連続性を踏まえ、他の年齢の教育・保育内容の流れを意識する。

例えば
事例②
P67

研修会を開く、研修資料に使用する。

幼稚園・保育所内で、手引きを参考にして、自分の園（所）の子どもたちの育ちなどを検討する研修会を開く。また、新任研修などにおける研修資料として使用する。

子どもの育ちのエピソードを集める。

手引きのエピソードを参考にし、自分の幼稚園・保育所での子どもの成長につながったエピソードを集める。また、集められたエピソードを保育者同士で共有する。

手引きの理解や話しあいにより、子どもの育ちを共有することが大切です。

教育・保育実践の振り返りに活用する。

手引きの教育・保育内容を参考に、各学期を総括する機会において、どこまで育っているかをチェックする。また、クラス運営にあたっての参考にする。

事例①

模造紙を使ったワークショップ

各園(所)で取り組んでみましょう

保育者同士が話しあいながら、
育みたい子どもの姿や取り組むべき教育・保育内容を共有する。

ワークショップのテーマ例

- 子どもたちの現状と課題
- 取り組むべき教育・保育内容
- 育みたい子どもの姿とねらい
- 必要な環境・援助

など

上記のテーマは、研修会や指導計画を作成する際の例です。ワークショップは、さまざまな人の考えや意見を共有することにメリットがあります。そのため、上記テーマ以外にも、「保護者と信頼関係を築くために必要なことは？」や「入園(所)したての子どもが園(所)生活に馴染むためには？」など、保育者同士で一緒に考えていきたい日頃の教育・保育実践の課題をテーマにすることも有効です。

実践例　育みたい子どもの姿は？

1 ワークショップの説明（5分）

ファシリテーター(進行役)が、ワークショップのテーマや流れについて説明します。
グループ編成は4～6人とし、一人ひとりが意見を言いやすい環境をつくります。

2 付箋に意見を記入（10分）

本手引きを参照しながら、付箋に各幼稚園・保育所での「育みたい子どもの姿」を記入します。一つの付箋に一つの意見を記入しましょう。間違った意見はないので、自由に思うことを記入しましょう。

3 話しあい（30分）

付箋に記入した内容を発表しながら模造紙に貼りつけていきましょう。似たような意見を集め、表題を模造紙に記入しましょう。模造紙に出された意見を話しあいながら共有しましょう。

4 振り返り、発表（15分）

ワークショップで話しあわれた内容を、グループ内で振り返りましょう。グループ内での共有意見や、課題として残ったことをまとめましょう。その内容などを、他の保育者も交えて発表しましょう。また、ワークショップを通じて学んだことや感じたことについても発表し、園(所)内研修などへの活用について考察してみましょう。

ワークショップ実践のポイント

①他の意見を否定しない

出された意見に間違いはありません。

②特定の人が話しすぎない

限られた時間の中で、さまざまな人からより多くの意見を集めることが大切です。

③メンバー全員が共有できる結論をめざす

さまざまな意見を共有し、メンバー全員が納得できる話しあいの成果を出すことをめざしましょう。

ワークショップの準備物

○模造紙

付箋が多く貼れる大きめの模造紙。

○付箋

正方形状。色をわけることによって、使い方も広がります。子どもの姿はピンク色、ねらいは水色など。

○サインペン・カラーマジック

参加者全員が付箋の意見を見られるように、黒色のサインペンを使います。似た意見をまとめ、枠組みをつくるためにカラーマジックを使います。

事例②

ワークシートを使った子どもの育ちの共有

各園(所)で取り組んでみましょう

保育者それぞれが自分の考えを整理するとともに、他の保育者と子どもの育ちを共有する。

ワークシートの項目例

子どもの育ちのエピソード　**エピソードに対する評価・反省**　**など**

上記のテーマは、子どもたちが日頃の生活の中で見せる子ども自身の育ちにつながった出来事をエピソードとして、保育者が共有するための例です。ワークシートには、子どもの育ちにつながったエピソードをまとめることにより、それぞれの考えを整理できることや、それを他の保育者と共有できることにメリットがあります。そのため、ワークシートで継続的に集められたエピソードを整理し、保育者の研修資料として活用することが有効です。

実践例　ワークシート記入から共有まで

1 ワークシートの配付

保育者に「子どもの育ちワークシート」(次頁参照)を配付します。対象年齢を指定するのも効果的です。

2 ワークシートの記入

1週間程度の期間で記入してもらいます。本手引きのエピソードを参考に、子どもの成長につながったエピソードを他の人に伝わるように簡潔にまとめることがポイントです。

3 ワークシートを用いた話しあい

保育者が記入したワークシートをもち寄り、それぞれのエピソードから、子どもの育ちについて意見交換を行います。話しあいで出た意見はワークシートの「コメント」に記入しましょう。

4 ワークシートの整理・まとめ

もち寄られたワークシートの内容を整理し、本手引きに綴じていきましょう。定期的に実施し、まとめていくことで、保育者の研修資料としても活用できます。

記入イメージ

子どもの育ちワークシート

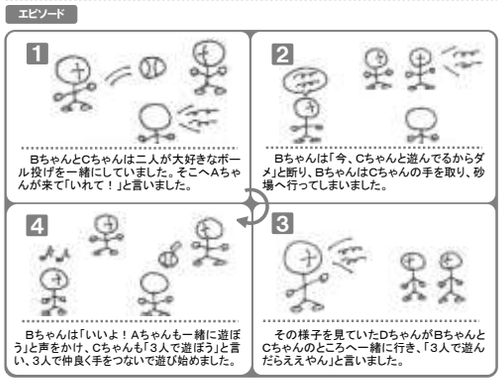
テーマ　名前：八尾　育子

3人で遊んだらええやん！(相手を思いやる気持ちを育む)

年齢・時期　4歳児　5月　場面　園庭にて　育まれる力　大切にする力　つながる力

あらすじ　AちゃんとBちゃんは仲が良く、いつも一緒に遊んでいます。そんなある日、BちゃんはCちゃんと一緒に遊んでおり、その様子を見たAちゃんが悲しんでいると、Dちゃんが仲立ちに入り、3人で仲良く遊ぶようになりました。

エピソード



1 BちゃんとCちゃんは二人が大好きなボール投げを一緒にしていました。そこへAちゃんが来て「いれて！」と言いました。

2 Bちゃんは「今、Cちゃんと遊んでるからダメ」と断り、BちゃんはCちゃんの手を取り、砂場へ行ってしまいました。

4 Bちゃんは「いいよ！Aちゃんも一緒に遊ぼう」と声をかけ、Cちゃんも「3人で遊ぼう」と言い、3人で仲良く手をつないで遊び始めました。

3 その様子を見ていたDちゃんがBちゃんとCちゃんのところへ一緒に行き、「3人で遊んだらええやん」と言いました。

評価・反省

Dちゃんが人を思いやる気持ちをもち、BちゃんとAちゃんの仲立ちができたことは素晴らしいことです。保育者としては、子ども同士で解決できるのを温かく見守り、必要に応じてアドバイスや仲立ちをすることが大切です。Dちゃんのアドバイスを素直に受け入れたBちゃんとCちゃんにも共感する力や折りあいをつける力が育まれ始めています。

コメント

遊ぶことを断わられたAちゃんの悲しい気持ちをDちゃんがくみ取り、代わりに伝えてあげ、子ども同士で解決できたことが良かった点です。友だちの思いに気づき、Dちゃんの言った言葉に嬉しさを感じ、友だちとのつながりが広がっていったと思います。

話しあいのポイント

①似ている場面をきいてみる
②子どもの視点と保育者の視点でエピソードを検証してみる

参加者全員の意見を集め、さまざまな視点から話しあうことがポイントです。

子どもの育ちワークシート

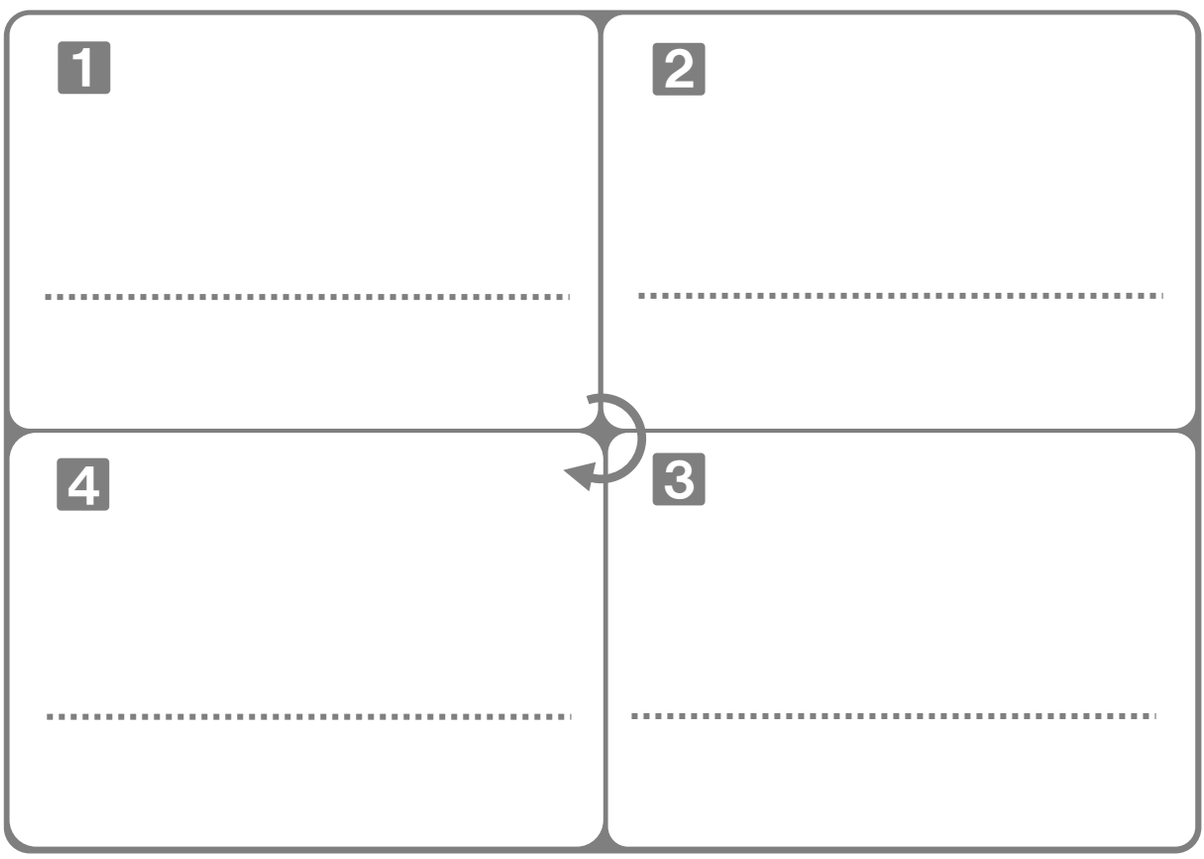
テーマ

名前：

年齢・時期　　**場面**　　**育まれる力**

あらすじ

エピソード



評価・反省

コメント

資料編

1. 八尾市の教育・保育に関する関連計画との関係

本手引きは、市全体のまちづくり方針を定めた「八尾市第５次総合計画（やお総合計画2020）」、その分野別計画であり教育の基本方針を定めた「八尾市教育振興計画」、子育て支援などの基本方針を定めた「八尾市次世代育成支援行動計画」などとの整合をはかりながら作成しています。

まちづくり全体の基本方針

第５次総合計画

将来像：元気をつなぐまち、新しい河内の八尾

基本目標：子どもや若い世代の未来が広がる八尾

○保育サービスの充実
　子どもたちが、保育所などで生き生きと過ごしている　等

○幼児教育の充実
　望ましい教育環境において、充実した幼児教育を提供することで、幼児が幼稚園での遊びや体験を通して、さまざまなことを学ぶことができる　等

○知徳体のバランスのとれた小中学生の育成
　八尾らしさを活かした学びの機会を通じて、子どもたちが「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」をバランス良く身につけている　等

今後の方向性

○保育内容の充実
　保育所において質の高い保育を提供するための保育士などへの研修の充実　等

○幼児教育内容の充実
　地域の特色を活かした教育実践　等

○幼児教育環境の整備
　適切な幼児教育の環境整備。幼・保・小の連携強化と幼保一体化に向けた取組みの推進　等

整合

子どもの教育・保育の基本指針

教育の基本方針

教育振興計画

子ども像：未来を切り拓くチャレンジする『八尾っ子』

基本方針：幼児教育の充実に取り組みます

○基本的な生活習慣や態度
○マナーやルールなど道徳性
○学習意欲や態度の基礎となる好奇心や探究心
○豊かな創造性
○幼稚園と小・中学校や特別支援学校、保育所などの連携

基本方針：学校教育の充実に取り組みます

○基礎的な知識・技能を習得・活用し、自ら考え判断し表現することによって課題を解決する力（「確かな学力（知）」）
○自らを律し、人とのつながりを大切にする心や感動する心、地域への愛着などの豊かな人間性（「豊かな心（徳）」）
○たくましく生きるための健康や体力（「健やかな体（体）」）

子育て支援などの基本方針

次世代育成支援行動計画

基本理念：みんなでつくる子どもの未来と幸せ

基本方針：すべての子どもの人権が尊重されて生き生きと育ち、子どもの生きる力を育てる学校・地域づくり

すべての子どもが一人の人間として尊重され、生き生きと育つことができるまちをめざします。また、学校や地域の中で、一人ひとりの子どもが、豊かな人間性や社会性を身につけ、自ら考える力など、子ども自身の「生きる力」を身につけられるようなまちをめざします。

本手引きの上位計画である「八尾市第５次総合計画（やお総合計画 2020）」「八尾市教育振興計画」「八尾市次世代育成支援行動計画」において示されている、本市の子どもを取り巻く主な現状と課題、今後の方向性を以下にまとめました。

教育面

1	幼稚園教育において小学校との円滑な接続の取組みが求められている。	**就学前教育と小学校教育の連携強化**
2	幼稚園の園児数の減少により、1園あたりの規模が小さくなっている。	**保育所との連携により、集団での遊びや学びの機会の創出**
3	幼稚園が地域での幼児教育センター的な役割を担うことが求められている。	**家庭生活と幼稚園生活の連続性を踏まえた幼児教育の充実**
4	都市化や核家族化などにより、社会とのつながりが希薄化している。	**家庭・地域と幼稚園の連携による幼児教育の充実**
5	学校での教育問題（いじめ・不登校など）の解決や家庭・地域の教育力の向上が求められている。	**中学校区を単位とする教育コミュニティづくりの推進**

保育面

1	女性の就業者や共働き世帯の増加に伴い、多様な保育サービスへの需要が増加している。	**待機児童の解消（特に0～2歳対応）**
2	保護者の就労形態が多様化するなど、多様な保育サービスが求められている。	**幼稚園や小学校との連携による保育サービスの充実**
3	子育て世帯と地域とのかかわりが希薄化している。	**子育て世帯と地域がかかわるきっかけづくり**
4	児童虐待の問題が深刻化していることや、保護者の育児不安やストレスの解消が求められている。	**地域子育て支援センターなどの子育て支援拠点による、情報提供や相談支援**

2. 教員・保育士・保護者の意識（アンケート調査結果）

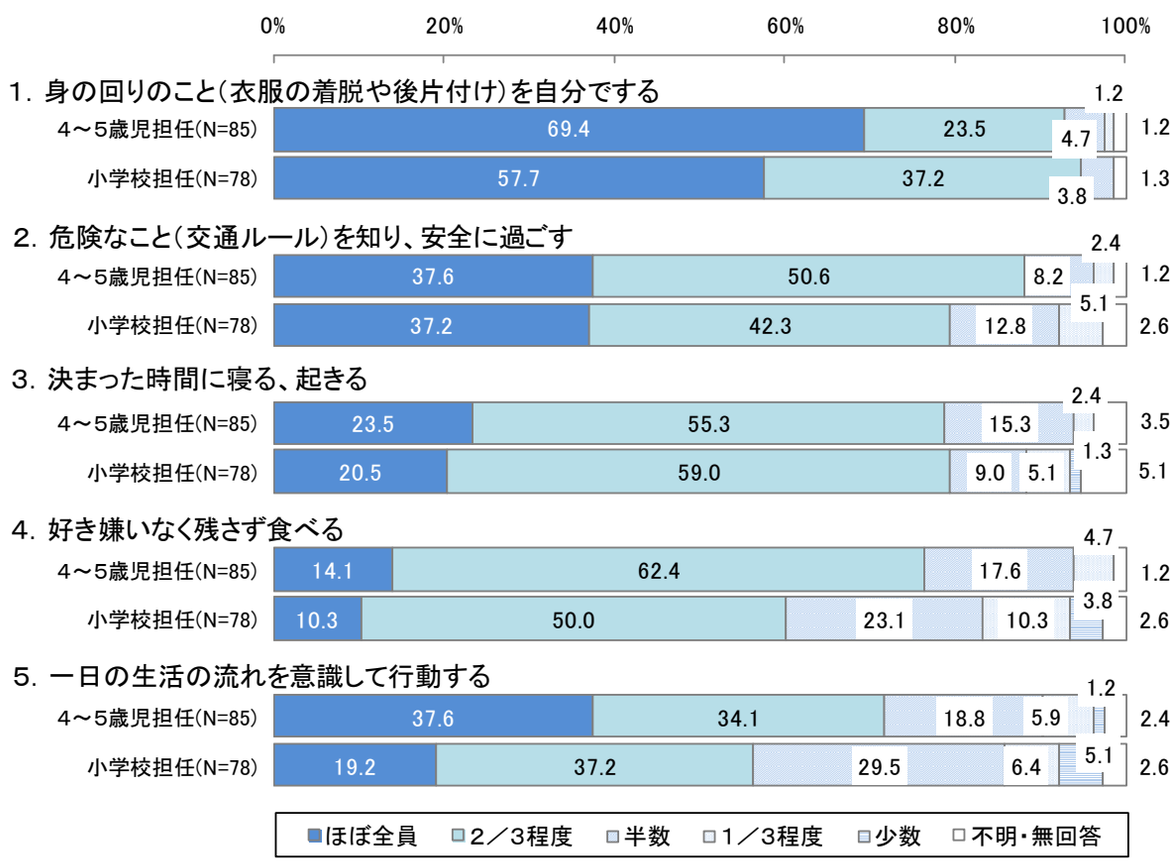
本手引きの作成にあたって実施した「教育・保育実践の手引き作成にかかるアンケート調査」の結果から、就学前教育・保育に関する保育者や保護者の意識や意向について主なものを以下にまとめました。なお、発達や学びの連続性を踏まえ、幼稚園・保育所の担任及び小学校担任の結果を記載しています。

子どもの様子

Q 子どもたちは、生活面についてどの程度できているか？【幼保小の担任】

A 小学校担任よりも幼稚園・保育所担任の方が、「２／３以上できている」と回答した項目が多い。

「一日の生活の流れを意識して行動する」を「半数以下できていない」と回答した小学校担任が４割以上いる。



見えること

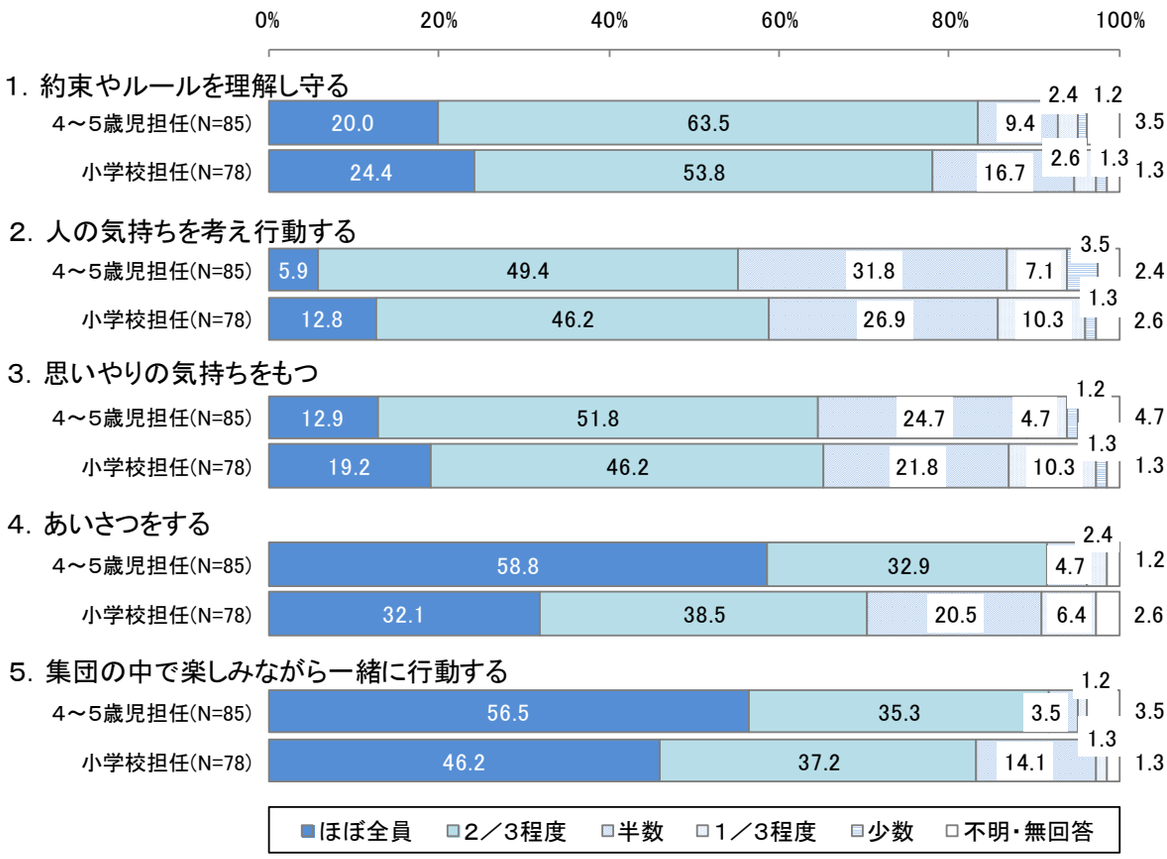
幼稚園・保育所ではこれまでの育ちを踏まえて回答されていることや、年長児の立場だった子どもたちが、教育環境の違いにより、一日の生活の流れが変化していることも影響していることも考えられます。

幼稚園・保育所においては、小学校入学による環境の変化を視野に入れて、**学び・発達の連続性を踏まえて教育・保育を実践**していくことが求められます。

Q 子どもたちは、人とのかかわりについてどの程度できているか？【幼保小の担任】

A 「人の気持ちを考えて行動でする」を「２／３以上できている」と回答した割合が６割未満であり、他の項目よりも低い。

「思いやりの気持ちをもつ」を「２／３以上できている」と回答した割合が７割未満であり、他の項目よりも低い。



見えること

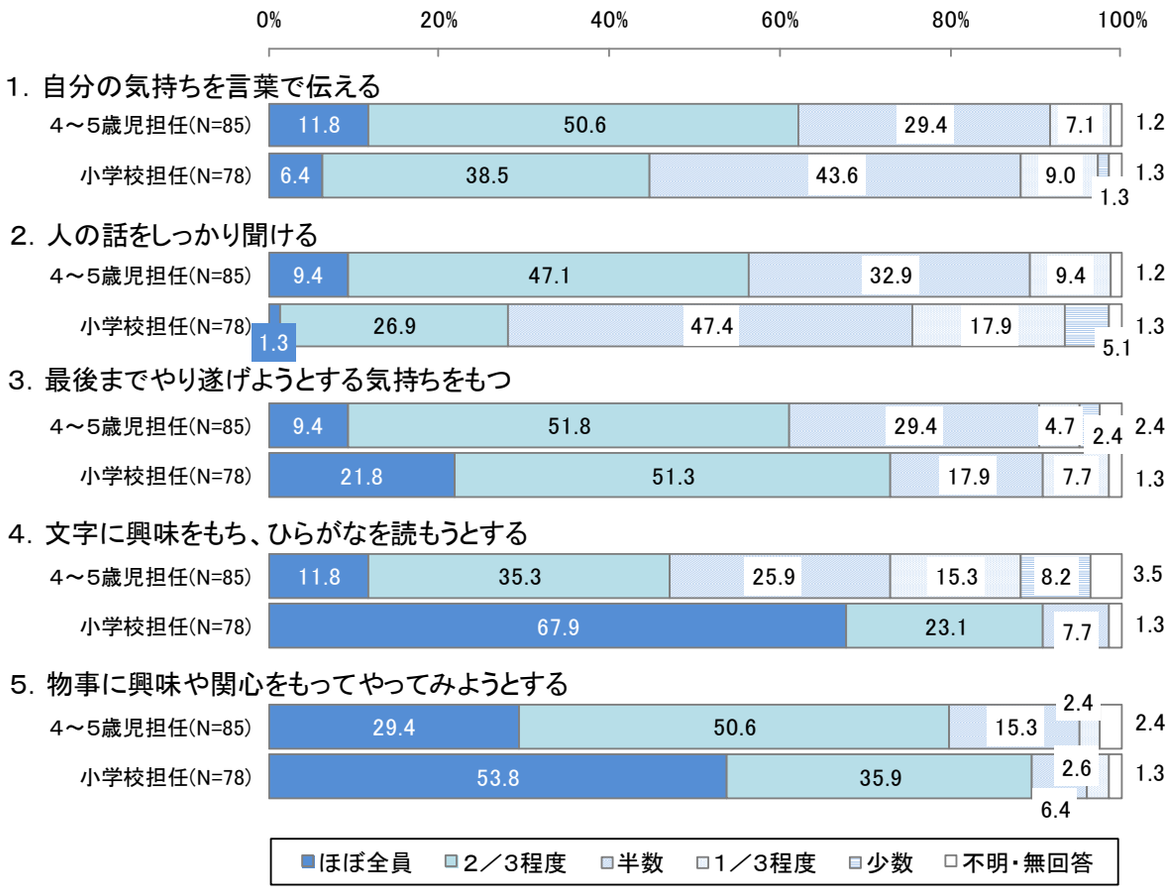
幼稚園・保育所の年長児では、葛藤を体験して折りあいをつけ、クラスの仲間とのつながりも強くなる時期であり、どの子どもにもかかわりを十分に保障することが大切です。小学校１年生では新たな人間関係や環境変化による戸惑いなどが子どもたちの人とつながる力の育成に影響を与えていることも考えられます。さらに、少子化や核家族化などによる、子どもたちがさまざまな人とふれあう機会の減少も要因の一つと考えられます。

その中で、さまざまな人とのふれあう機会を通して、相手を思いやる力や人の気持ちを考える力などの**人を大切にする力の育成**が求められます。

Q 子どもたちは、学びの芽生えについてどの程度できているか？【幼保小の担任】

A 小学校担任では、「自分の気持ちを言葉で伝える」を「２／３以上ができている」と回答した割合が５割未満、「人の話をしっかりきける」を「２／３以上ができている」と回答した割合が３割未満であり、他の項目よりも低い。

物事・文字に興味や関心をもてる子どもの割合は、幼稚園・保育所園児よりも小学生が高くなっている。



見えること

「自分の気持ちを言葉で伝える」や「人の話をしっかりきける」などの**“伝える力”と“きく力”が十分に身についていない子どもが多い**ことがうかがえます。遊びの中で子どもが周りの大人や友だち同士と気持ちや考えを伝えあったりする機会を充実させ、人とつながる力を育むことが求められます。

就学前教育においてもさまざまな遊びや体験を通じて、**興味や関心を高めていく環境づくり**が求められます。

家庭の教育力

Q 「家庭の教育力」を高めるために重要なことは？【幼保小の担任、保護者】

A 保護者は、子どもが保護者を含めたさまざまな人と交流する機会（保護者や祖父母、近所の人など）を重要としている。

保護者のしつけや教育について相談できる機会づくりを重要と思う割合は３割弱に対して、幼稚園・保育所担任、小学校担任では５割以上となっている。

見えること

子どもと親が一緒に過ごす時間を増やすことや、地域のさまざまな世代の方々との交流機会の拡充が求められており、家庭教育力を高めるためには**幼稚園・保育所・保護者が地域と連携**し、多様な人との交流活動を促進させることが重要であると考えられます。

保護者は、家庭教育に関して相談する機会よりも、子どもとふれあう機会をもつことが重要ととらえています。

地域の教育力

Q 「地域の教育力」を高めるために重要なことは？【幼保小の担任、保護者】

A 幼稚園・保育所担任、小学校担任、保護者ともに、地域の大人が地域の子どもに関心を持ち、褒めたり、注意することを重要としている。

幼稚園・保育所担任では子どもの自然・社会体験、小学校担任は家族・地域との交流、保護者は安心して遊べる環境と、それぞれ重要とする項目に差が生じている。

見えること

核家族化の進行や地域のつながりの希薄化などが進む中で、地域の教育力を高めるためには、**地域の大人が子どもにかかわっていく機会やしくみをつくる**ことが必要だと考えられます。

幼稚園・保育所担任、小学校担任、保護者のそれぞれにおいて、重要ととらえている項目の割合に差が生じていることからも、それぞれができること・しやすいことを意識し、**幼稚園・保育所、家庭・地域が連携し、地域の教育力を高めていくこと**が求められます。

3. 就学前教育・保育実践の手引き作成経過

本手引きの作成にあたって開催した「八尾市教育・保育実践の手引き検討会議」及び「八尾市教育・保育実践の手引き検討会議作業部会」での主な議題を以下にまとめました。

年	月 日	会 議 名	議 題
平成24年	6月 21 日（木）	第1回 八尾市教育・保育実践の手引き検討会議	●手引き作成の趣旨 ●手引き内容の具体的イメージ ●検討会議及び作業部会の役割 ●アンケート調査票（案）
		第 1 回 八尾市教育・保育実践の手引き検討会議　作業部会	●手引き作成の趣旨 ●今後のスケジュール ●手引き内容の具体的イメージ ●グループワーク ・小学校入学までに育てたい力の意見出し
	7月 31 日（火）	第2回 八尾市教育・保育実践の手引き検討会議　作業部会	●グループワーク ・育てたい力の確認 ・各年齢別の育みたい子どもの姿の意見出し
	8月 28 日（火）	第3回 八尾市教育・保育実践の手引き検討会議　作業部会	●グループワーク ・年齢別の子どもの現状と課題の意見出し ・年齢別の子どもの育みたい力の意見出し
	9月 25 日（火）	第4回会議 八尾市教育・保育実践の手引き検討会議　作業部会	
	10 月 25 日（木）	第5回 八尾市教育・保育実践の手引き検討会議　作業部会	●グループワーク ・年齢別の子どもの姿及び保育・教育内容の検証 ・事例（エピソード）の検証
	10 月 29 日（月）	第1回 八尾市教育・保育実践の手引き庁内会議	●アンケート調査結果報告書の確認 ●手引き（案）の確認
	11 月 20 日（火）	第6回 八尾市教育・保育実践の手引き検討会議　作業部会	●グループワーク ・教育・保育内容、事例の検証 ・家庭・地域との連携内容の意見出し
	12 月 11 日（火）	第2回 八尾市教育・保育実践の手引き検討会議	●作業部会での協議経過 ●手引き（案）の確認
平成25年	1月 29 日（火）	第7回 八尾市教育・保育実践の手引き検討会議　作業部会	●グループワーク ・手引き（案）の振り返り及び意見交換 ・手引きの活用方策の意見出し
	2月 26 日（火）	第8回 八尾市教育・保育実践の手引き検討会議　作業部会	●グループワーク ・手引き（案）の最終確認 ・これまでの振り返り ・手引きを活用した演習（エピソード）
	3月 19 日（火）	第3回 八尾市教育・保育実践の手引き検討会議	●作業部会での協議経過 ●手引き（案）の最終確認 ●手引きの今後の活用方策

4. 八尾市教育・保育実践の手引き検討会議設置要綱

（設置目的）

第１条　八尾市立幼稚園（以下「幼稚園」という。）、八尾市立保育所（以下「保育所」という。）及び八尾市立小学校（以下「小学校」という。）における子どもの発達や学びの連続性を踏まえた教育・保育の実践の手引きを作成するため、八尾市教育・保育実践の手引き検討会議（以下「検討会議」という。）を設置する。

（所掌事務）

第２条　検討会議の所掌事務は、次のとおりとする。

⑴　八尾市教育・保育実践の手引きの検討、決定及び推進に関すること。

⑵　その他、上記に関連すること。

（組織）

第３条　検討会議は、委員８人以内をもって組織する。

２　委員は、別表１に挙げる職にある者のうちから、教育委員会が委嘱し、又は任命する。

（会長及び副会長）

第４条　検討会議に会長及び副会長を置く。

２　会長は学識経験者とし、副会長はこども政策課長及び教育政策課長とする。

３　会長は、検討会議を代表し、会務を総理する。

４　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

（会議）

第５条　検討会議は、会長が招集し、主宰する。

２　会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を検討会議に出席させることができる。

（作業部会）

第６条　検討会議に作業部会を設置することができる。

２　作業部会は、委員 22 名以内をもって組織する。

３　委員は、検討会議の会長及び小学校、幼稚園、保育所の教職員のうちから、教育委員会が委嘱し、又は任命する。

４　作業部会の所掌事務は、次のとおりとする。

⑴　八尾市教育・保育実践の手引き案の策定に関すること。

⑵　八尾市教育・保育実践の手引きの検証、推進に関すること。

⑶　その他、上記に関連すること。

（任期）
第７条　検討会議委員及び作業部会委員の任期は、委嘱又は任命した日より平成 26 年３月 31 日までとする。

（謝礼）
第８条　会長の謝礼の額は、検討会議及び作業部会に出席した日１日につき 21,000 円とする。

（庶務）
第９条　検討会議の庶務は、教育政策課において行う。

（委任）
第 10 条　この要綱に定めるもののほか、必要な事項は会長が別に定める。

附　則
この要綱は、平成 24 年４月１日より施行する。

別表１

学識経験者
こども政策課長
教育政策課長
保育課長
指導課長
小学校長
保育所長
幼稚園長

5. 八尾市教育・保育実践の手引き検討会議及び作業部会委員名簿

■八尾市教育・保育実践の手引き検討会議委員名簿　※平成 24 年度行政機構順、敬称略

氏　名	所　属　等	備　考
掘越　紀香	奈良教育大学　教育学部　准教授	会長
辻村　和寛	こども未来部こども政策課長	副会長
田辺　卓次	教育委員会事務局理事教育政策課長事務取扱	副会長
當座　宏章	こども未来部次長兼保育課長	
柿本　みき	八尾市立堤保育所長	
靏原　隆司	学校教育部次長兼指導課長	
大窪　住子	八尾市立大正幼稚園長	
藤井　一枝	八尾市立中高安小学校長	

■八尾市教育・保育実践の手引き検討会議　作業部会委員名簿　※平成 24 年度行政機構順、敬称略

氏　名	所　属　等	備　考
掘越　紀香	奈良教育大学　教育学部　准教授	検討会議会長
濱口　澄子	八尾市立西郡保育所　所長補佐	
林　圭子	八尾市立安中保育所　所長補佐	
北野　淳子	八尾市立荘内保育所　所長補佐	
伊藤　加代子	八尾市立山本南保育所　所長補佐	
佐々本　清恵	八尾市立弓削保育所　所長補佐	
当麻　準子	八尾市立堤保育所　所長補佐	
平山　知永子	八尾市立末広保育所　所長補佐	
戸田　有貴	八尾市立龍華幼稚園　主任	
岡内　郷子	八尾市立南高安幼稚園　主任	
網島　文香	八尾市立北山本幼稚園　主任	
堀谷　充代	八尾市立南山本幼稚園　主任	
天野　千晶	八尾市立志紀幼稚園　主任	
上田　愛	八尾市立高美幼稚園　主任	
高谷　和美	八尾市立永畑幼稚園　主任	

※イラスト作成（表紙、年齢別の教育・保育内容）：荘内保育所　岡部和代さん

就学前教育・保育実践の手引き

平成25年3月　発行（H24−183）
【発行】八尾市
八尾市教育委員会
〒581-0003　大阪府八尾市本町1丁目1-1
【TEL】072-991-3881（代表）
【ホームページ】http://www.city.yao.osaka.jp/